

英國  
初學教育條例

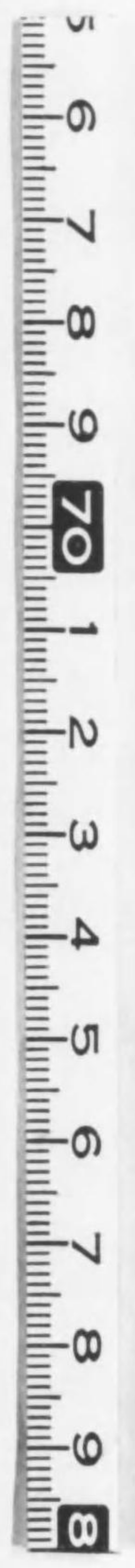
四

特279-308



特279

08



始



特279  
308

第四十一章 學區創建ノ事情ヲ論ス

諸學ヲ統轄セシ文部省ニハ此ノ條例ヲ發行スルノ後日アラズシテ又二個以上ノ學區ヲ聯合スルハ衆ノ爲メニ便利ナリヤ否ヲ考索探討セシ事ヲ要ス而シテ後精究論定ニ果シテ聯合學區ノ簡便ニシテ利益アルコトヲ體認シテ後ハ即チ文部省ヨリ各區ノ學校供給等ヲ召集スルニ及シテ乃チ其主意ヲ公告シ目今此レ等ノ學區ヲ聯合セント欲スルノ旨趣ヲ具ニ明示ス可シ是ノ時ニ當リテ若シ此ノ報知ヲ憂恨シ若シク

ハ非議スル者有テ更ニ是ノ事情ヲ點檢セリ  
テ望請セハ重ネテ公平ノ照査ヲ做シ了ラ遂ニ  
之ヲ確定スル等ノ事ニ關涉ス可シ此ノ條例ノ  
款件ハ最モ後ノ報告ニ據レハ學校ノ供給ヲ免  
除ス可キ時限ニ至ルニテハ學區聯合ノ事ニ就  
イテ公然タル試験ヲ做ス丁シ要求セザルヲ以  
テ恰モ學區ヲ聯合スルノ時ニ通用ス可シ  
而シテ聯合學區ヲ做ス可キ命令ノ如キハ最初  
學務局ヲ創建ス可キ權カシ文部省ニ附其セラ  
レタル時ニ於テ布令スルヲ最良ナリトス且ツ

聯合セシト欲シ又更ニ學校供給ノ公費ヲ出ス  
ハ各個學區ノ地位ニ據準ス可カラズ唯宜シク  
聯合學區ノ地位ニ而シ據準ス可キコトヲ思量ス  
可シ是ノ故ニ公然タル學校供給並ニ其事務  
ニ關係セル決意ノ報告ハスベテ聯合學區ノ地  
位ニ管ス可シテ度モ各區ノ地位ニ管ス可カ  
ラハルナリ

一 文部省ノ決議ヲ示令スル所ノ報告ニ關  
係セシ款件ハ第九條ニ在リ公然タル考究ニ  
於ケル望請ハ第九條ニ在リ而シテ其考究ヲ

行フ事ハ第七十三章ニ在リ文部省ノ最後ノ報告ハ亦載セテ第九章ニ在リ

第四十二章聯合學區ノ分離ヲ論ス

文部省ハ後章ニ後章ニ記載スル所ノ考究ト其事ニ關係セシ報告トヲ做スノ後更ニ命令ヲ發シテ聯合學區ヲ分離シ其未タ聯合セザリシ時ト同一様ナル方法ヲ以テ之ヲ管理シ而シテ後各區中ニ學務局ヲ創建ス可シ

聯合學區ヲ分離スルニ先タ其究實ヲ做シ報告ヲ發スルニ就イテハ第四十三章ヲ檢

閱ス可シ

第四十三章未タ成立セサル聯合學區ニ關係セル公然ノ究實

文部省ハ此ノ條例ニ從ヒ最初ノ申狀ヲ出スノ後某時ニ於テ聯合學區ヲ創立シ若シハ之ヲ分離スルニ於テ何レヲ便利ナリト做スヤシ究擬スベシ而シテ斯ノ如ク考究究詰シテ後ニ聯合學校ヲ創立シ或ハ分離ス可キヲ決定スル時ニハ其命令スル所ヲ施行スルニ先タツテ大約三個月ニ於テ其命令ノ趣旨ヲ一般ニ公告

セガルトフ得ズ然ルニ此ノ條例ニ據リテ成完  
ニタル最初ノ申狀ヲ出スノ後公然ノ究實ヲ做  
サントフ望請スベキ権カアル人ハ若シ其命令  
ニ於テ假款ス可キ所有ラ意ヲ如クナラザル時  
ハ更ニ復タ公然タル究擬ヲ做サント請フコトヲ  
得可シ是ニ於テ文部省ハ公然ノ照檢ヲ做シテ  
學區ヲ創立シ若シクハ分離ス可キ命令ヲ下ス  
ニ方リテ先ツ其申狀ヲ反覆シテ詳細ニ思量セ  
ズンハ有ル可カラズ

第四十四章聯合學區ヲ創立シ或ハ之ヲ

分離スルノ證據タル可キ命令

聯合學區ヲ創立シ或ハ分離スヘキ文部省ノ命  
令ハ即チ此ノ如キノ學區ヲ創立分離ス可キノ  
證明タルモノニシテ大畧此ノ如キノ命令ヲ發  
シテ三ヶ月ヲ過クルノ後ハ其學區必不適宜ニ  
創立分離自在タルニ至ル而シテ其創立スル  
モ或ハ分離スルモ既ニ其處置ヲ確定セシ後ニ  
在ラ莫クモ異議ヲ發スヘカラズ

但シ三ヶ月以内ニ於テハ此ノ如キ結約ノ命  
令トイヘ氏女王ノ法院ニ在ラ或ハ廢制廢除

セラル、事アリ

第四十五章 聯合學區ニ於ケル學務局ノ法  
制

各區ニ在ル所ノ學務局ノ法制ニ關シテ此ノ條  
例ニ依フ所ノ款件ハ亦聯合學區中ノ學務局ノ  
法制ニ適當ス可シ而シテ其學區ノ名稱ノ如キ  
ハ文部省ノ指揮スル所ニ從フ可シ

各區ノ學務局ノ法制ニ關係シタル款件ノ如  
キハ第二十九章及ヒ第三十章ノ參考者ニテ  
領會ス可シ

第四十六章 聯合學區ニ於テ學務局ノ更  
負ヲ撰舉スル事

聯合學區ニ在テハ學務局ノ更負タルモノ一學  
區ヲ制立スル時ノ命令ニ於テ詳説スル所ノ如  
ク各區ノ撰舉スルノ採用スル人負ニ均シカル可  
シ然レモ尚ホ他ノ學務局ニ於ケル撰舉ト同一  
様ニシテ時ニ變換スル所有ラントス凡ソ此ノ  
如ク集合シテ聯合學區ヲ結構スル所ノ一學區  
ニ於テ其未タ聯合セザリレ時ニ學務局ノ更負  
ヲ撰舉スルニ當リ投票スヘキ權利ヲ保有スル

モノハ此ノ學務局ノ吏負ヲ舉クルニ方リテモ  
亦必ス撰舉人ト御ルコトヲ得ベシ依テ一學區  
吏負ヲ論シタル此ノ條例中ノ款件ハ之ヲ擴充  
シテ以テ聯合學區ノ吏負ヲ撰舉スルノ料ニ  
備フ可シ

吏負ノ數ノ如キハ其初時ニ在テ文部省ヨリ  
之ヲ定メ可シ然レモ其後ニハ始終學務局ニ  
於テ裁斷シ文部省ノ許可ヲ受ケテ之ヲ決定  
ス可シ第三十一章ヲ參看セヨ又此ノ學務局  
吏負ヲ撰舉スルニ方リ投票ス可キ權利アル

又ニテ撰舉ノ事務ヲ嚴置スル方法等ニ關セ  
ル款件ヲ知ラント欲セバ第二十九章第三十  
一章及七第四十八章ヲ比較シテ其意ヲ參  
考ス可シ

第四十七章聯合學區ヲ創建スル事ノ  
次序

今夫聯合セント欲スル學區ノ部ヨリ於テ既ニ  
此ノ條例ニ撰準シテ設建スル所ノ學務局ヲ有  
持シタル一學區若シクハ斯ク如キ學區ノ一部  
分ヲ包括スルニ至ル件或ハ又聯合學區ヲ分



スル片ニ於テハ文部省ヨリ命令ヲ下シテ當時  
設建スル學務局ヲ至ク多難シ或ハ已ニ成定ス  
ル學務局ノ法制ヲ悉ク改革シテ學校ニ關係セ  
ル諸事務ヲ適宜ニ整理シ學務局ノ所有物並  
ニ其権限責任等ヲ定メ其他凡百ノ必要事務  
ヲ整定ス可キナリ

第四十八章 秋小ナル寺領ヲ論ス

若シ夫ノ文部省ニ於テ聯合學區中ノ甚々秋小  
ナル一寺領ヲ以テ學費稅ヲ出スノ入モ亦甚々  
少ク此ノ條例ニ據テ特別ナル寺領ト看做スニ

足ラザルコトヲ認識セハ即チ命令ヲ下シテ此ノ  
寺領ノ入民ハ學務局ノ吏員ヲ撰擧スル片投票  
スルニ就テモ亦他ノ此ノ如キ條例ニテ百率ヲ  
舉行スルニ就テモ皆必ス自餘ノ寺領ノ入民ト  
協力同心ス可キ條理ヲ指教シ若シ此ノ領ヲ一  
寺領ト見做ス時ハ其長老ノ集會堂ニ於テ  
投票シ且ツ此ニ會議ス可キ所ノ入ヲシテ投  
票セシメ若レクハ會議スルコト有ルコ方リテ必  
ズ該寺領ヲ加附シタル他ノ廣大ナル寺領ノ長  
老ノ如ク集會堂ニ投票會議スルノ權利ヲ有

持セシム可キナリ是ヲ以テ聯合學區中ニ占有  
シタル諸寺願即チ其二個以上ハ此ノ章ノ詔ヲ  
所ニ隨ヒ合併スルコトヲ得可シ

學務局ヨリ吏員ヲ撰舉スルニ當リテ投票  
スヘキ權利アル人ニ就イテハ第二十九章ヲ  
檢閱ス可シ

第四十九章 寄附ヲ做ス學區

文部省ハ命々下シ一學區ヲシテ他ノ學區中  
ノ公立幼學ニ校ノ為メニ預備支給ヲ寄附セシ  
ムルコトヲ得ルモノタリ第一而シテ此ノ如キ時ニ

方テハ前ニハ即チ寄附ヲ出ス所ノ學區ニシテ  
後ニハ即チ其寄附ヲ受ル所ノ學區ノ為メニ  
豫備支給ノ費用ヲ出スニ於ケル皆文部省ヨ  
リ時ニ指令スル所ニ從フ可キ也

第一凡ソ一學區中ノ一學校ハ必ス其近隣ノ  
學區ノ為メニ甚タ利益有ルモノニシテ此  
レカ爲ニ完全ナル公立學校ノ供給ヲ生シ得  
可シ故ニ此ノ近隣ノ學校ノ為メニ特別ノ供  
給ヲ備フルヲ以テ必要ナラズト詔フニ至ル  
此ノ章ハ最モ結末ニ記載セシ學區ヲシテ他

ノ學校ノ預備支給ノ一部カヲ助力寄附セシ  
ム可キ權カヲ文部省ニ附與スルコトヲ論スル  
者ナリ而シテ二個以上ノ學区ニ於テ協力維  
持ス可キ學校ニ豫備支給スルガ爲メニ  
此ノ二個以上ノ學区ヲ結合スルコトニ就イテ  
論辨整理スル所以ノモノハ具ニ第五十二章  
ニ記載セリ

第五十章 寄附ヲ做スル學区ニ於テ吏  
員ヲ撰擧スル事

一學區ニ於テ他ノ學區ノ一學校ヲ豫備支給

スルカ爲メニ助力寄附スルモノ有ルハ文部  
省ヨリ指令ヲ下シ其寄附ヲ做ス所ノ金額ノ  
次第ニ隨ヒ寄附ヲ做スル學区ニ於テ多ク又  
負ヲ撰擧ス可シ而シテ此ノ如ク撰擧セラルハ  
ノ人ハ其寄附ヲ受ク可キ學区ノ學務局ノ  
吏員ト做サザル可カラズ然ルニ此ノ結末ニ記  
載シタル寄附ヲ受ルノ學区ハ金ヲ課収スルト  
児童ヲシテ學校ニ出席セシムルコトニ關係スル  
トノ外ハ此ノ如ク撰擧セシ學務局吏員ノ管  
スル所ト看做スコトヲ得可シ然ルニ又此ノ吏員

ヲ撰舉スルニ方リテハ或ハ學務局ニ於テ之ヲ  
做シ或ハ未タ學務局ノ創建セザル時ニ在テ  
ハ其撰舉ス可キ審量ノ又コレヲ撰舉ス可キ  
方法ヲ以テ其吏員ヲ採用ス可シ

寄附ヲ做スノ學区ト寄附ヲ受ルノ學区ニ  
於テ格別ナル學務局ヲ置クコト可ク否ヲ熟考  
スルニハ此ノ章ノ款件ト五十五章ヲ比觀スル  
件ハ實ニ明了ナル可シ蓋シ寄附ヲ做スノ學  
区ニ於テ學務局ヲ設置スルコトハ該區ノ兒  
童ヲ却逼シテ必ズ學校ニ出席セシメニコトヲ

欲シ附録法則ヲ作ルガ為メニ極メテ有用ニ  
シテ望ム可キ所ナリ

第五十一章寄附ヲ做スノ學区ニ於ケル  
報告及ヒ一般ノ究擬ヲ論ス

夫レ公布ス可キ報告ニ關涉シタル此ノ條例  
中ノ款件ト聯合學區ヲ創建スル為メニ一般  
ノ試驗ヲ做サニコトヲ望請シテ之ヲ修行スルコ  
トハ寄附ヲ做ス學區ニ於テ命令ヲ發スル由  
ニ方リテ必適スル者ナリ

聯合學區ヲ創建ス可キ命令ニ關セル款

條ノ如キハ詳ニ四十一章及七四十三章ニ見  
エタリ

是故ニ寄附ヲ做ス學區ニ關係セシ命令ハ即  
チ其學區ヲ造成スルノ證據ト做スヲ得可シ  
而シテ此ノ如ク命令ヲ發セシ日ヨリ凡ソ三月  
ヲ過クルノ後ハ其學區ハ既ニ能ク造成スル者  
ト假定ス可レ且ツ此ノ如キ凡百ノ確實ナル者  
置ニ於テハ決シテ異議ヲ做ス可カラズ  
然リトイヘ凡此ノ如キノ布令ハ時ニ臨ニテ或  
ハ文部省ノ命ニ由リテ更改破却セラレテ更ニ

新令ノ其代ニ造成セラル、事アリ然ル片ハ寄  
附ヲ做サレシテ可キ命令ヲ作ルトニ關セル此ノ  
條例中ノ要件ハ彼ノ寄附ヲ做ス可キ命令ヲ破  
却スヘキノ令ヲ作ルニ於テ適當セリ

第五十二章 學務局ノ結合スル事

二個以上ノ學區ノ學務局ハ文部省ノ決定ス  
ル所ニ從ヒ其區中ノ幼學ニ校ノ事ニ就テ結合  
ニ致スルヲアル可シ而シテ其目的ト做ス所ハ  
該各區ニ於テ協合維持ス可キノ學校ニ預備費  
給ヒテ堅固ニ之ヲ保存スルニ在リ然ルニ斯ノ

如ク一致スルアラユク欲スレバ此ノ條例中  
ノ司長ヲ任スルニ就イテ論スル所ノ要件ニ從  
ヒ數多ノ司長ヲ合併ス可キコトヲ命スルニ由  
リ又各學区ノ出ス可キ寄附金ノ分配ヲ定メ  
其他文部省ヨリ一同合併ヲ做スヲ以テ必要  
ト做ス所ノ一事務ヲ舉用セラシテ全ク成  
ス可シ而シテ此ノ司長ヲ合併スルガ爲メニ生  
スル所ノ費用ノ如キハ各學務局ノ協議ニ由  
リテ定ムル所ノ分配ヲ以テ各ニ其學校ノ資  
本中ヨリ出シテ之ヲ償フ可キナリ

第五十三章 學費即チ學務局管理ス  
ル學校ノ資本

此ノ條例ニ據ルニ學務局ノ費用ハ必ズ學校  
資本ト稱スル一個ノ資本中ヨリ之ヲ支濟セガ  
ルコトヲ得ス而シテ此ノ學校資本中ニ生徒ヨ  
リ謝礼トシテ収納スル所ノ金額ヲ悉ク加入シ  
又公會ヨリ寄贈スル所ノ金若シクハ借用ス  
ル所ノ金其他種ラノ方便ヲ以テ學務局ニ受  
取セシ所ノ金ヲ入ル可キナリ然ルニ尚ホ且ツ  
欲スル所アルハ此ノ條例ニ陳列スル所ノ

意ヲ賦課シ學務局ニ於テ之ヲ募カ収スルコトヲ  
得可キナリ

第五十四章 學費稅中ヨリ出セシ學校

資本ノ缺乏ヲ論ス

學校資本ニ缺乏スル所アルニ由リテ之ヲ補フ  
カ爲メニ要求スル所ノ金額ハ既往ノ費用ヲ償  
フ爲メニスルモ亦未然ノ用ニ供スル爲メニス  
ルモ一切算計局ノ指揮ニ隨ヒ該地定稅中ヨ  
リ之ヲ償ヒ得ルコトヲ專ス

コトキスホルドノ外ノ諸縣ニ於テハ凡テ會議

局ノ議負ト稱スルモノ即チ算計官ニシテ縣  
學費資本或ハ縣學費稅ハ即チ該地ノ事務局  
ト稱スルモノ即チ算計官ニシテ該局ノ收稅  
ハ即チ該地ノ定稅ナリ

縣地若シクハ首府中ニ含有セラレガレ寺領  
ニ於テハ監督者即チ算計官ニシテ濟費稅  
ハ即チ該地ノ定稅ナリ

又首府ニ就イテ論スルニ倫敦市中ニ在テハ  
コトムニツレヨネルスオフセウオールスヲ算  
計官トシ一千八百五十五年ノ首府監督條例

ノ附加條ハ號ニ含有セル寺領ニ在リテハ長  
老集會ヲ以テシ此ノ條例ノ附加條ハ號ニ占  
持セル學區ニ在リテハ區局ヲ以テシ「ゼ、コー  
レ、エ、ート、キヤルチ、オフセントヒート」及  
ヒ「キヤルター、ハウス」若シクハ「インネル」テ  
プル又ハ「ミソド」テ「フル」其他「リ、ニコ  
ル、イン、ス」又「グ、レー、スイ、ン」ステ「プ、ル  
イ、ン」及ヒ「アルニバルスイ」即チ此ノ條例ノ  
C号ニ有持スル場所ニ在リテハ法院ノ長官  
並ニ學金者其外一所ニ於テ顯要ナル權威

ヲ有持スルスヲ以テ算計官ト做シ又倫敦市  
ニ在リテハ集合シタル稅ヲ以テ「首府監督  
條例」ノ附加條ハ號ニ含有セル寺領及ヒ學  
區ニ在リテハ一般ノ稅及ヒ此ヨリ生スル所  
ノ資本ヲ以テシ其C号ニ於テ詳説セシ所  
ニ在リテハ首府一般ノ濟貧資本ヲ助給セ  
シカ爲メニ課收スル所ノ稅ヲ以テ該地ノ定  
稅ト見做スナリ即チ第四章ヲ看ル可シ而  
シテ此ノ條例ノ「C」三號ニ保有セル寺領  
學區及ヒ其他ノ地所ハ第三章三十九條並ニ



四十葉ノ傍注ニ於テ附示セリ  
一千八百七十一年七月五日ニ於テワイルキト  
バツツレ」即ハ出族等議案ヲ出シテ凡テ  
學校資本ニ欲スアル時ニ縣地ノ會議所ニ  
於テ縣學資本或ハ縣學費稅ヨリ之ヲ補  
フヲ以テ便利ナリト決定セザルハ學務局  
ヨリ申狀ニ縣地ノ會議所ニ贈ルコトヲ要セ  
ズ而シテ要求スル所ノ金額ハ直ニ學務局ニ  
於テ會計官ノ權カシ以テ該地定稅中ヨリ  
課收ス可キコトヲ論說セリ然レバ此ノ議案

ハ遂ニ行ハレズレテ止ハ措イ哉

學務局ハ申狀ヲ會計官ニ出シ之ヲレテ其  
狀中ニ示ス所ノ金額ヲ該地定稅中ヨリ亦テ  
學務局ノ學金者ニ贈ル可キコトヲ得ヘシ而シテ  
會計官ハ之ヲ返還セザルコトヲ得ズ然ルニ他ノ  
學金者ノ申狀ハ此ノ金額ヲ償ヒ得ベキモノニ  
レテ今已ニ之ヲ得ルニ至テハ又必ス之ヲ學校  
資本中ニ加ス可キモノナリ

申狀ノ式樣ハ詳ニ一百四十六葉ノ第三附加  
條ニ在リ又此ノ申狀ニ押印ス可キ人ニ就イ

テハ第三附加條目第六ノ傍注ヲ見ル可キナ  
リ又申狀ノ用法ニ就イテハ第八十一章ヲ參  
觀ス可シ

若シ又算計官ノ該地定税ニ關涉シ或ハ事宜  
アルヲ以テ現在ニ金ヲ有持スルノ無キ時ハ即  
チ其要スル所ノ税或ハ此ニ關セル一ノ寄附ヲ  
課收シ或ハ此税及ヒ寄附ノ増加セザルヲ得  
ズ而シテ其既ニ各自ノ費用ヲ及還シテ後ハ勿  
論此ノ等ノ税及ヒ寄附ヲ課收シ若シクハ増  
加スルヲ得可シ此レハ公會ノ條例ニ由リテ定

ムル所ノ一制限及ヒ其他ノ事ニ關係セザル  
ナリ是ノ故ニ算計官ハ通常該地ノ定税中ヨリ  
及濟スルヲ以テ適當ト做ス所ノ費用ヲ償フ時  
ノ如ク同一様ナル權カヲ以テ税ヲ課收シ得ベ  
ク又寄附ヲモ要シ得可シ

茲ニ一寺領アリ一部ハ縣地ノ中ニ在リ又  
一部ハ其外方ニ在ル時ハ監督者ヲシテ縣外  
ニ寺領ノ部分アルガ爲メニ寺領ノ一般ノ濟  
貧税ヨリ償フベキ所ノ學務局ノ費用ヲ出サ  
シムルハ其不々平ナルト明白ナリ此レ等ノ

事ニ就イテハ五十六章十九款件ヲ参考シテ其意ヲ領ス可シ

第五十五章聯合學區及ヒ寄附ヲ做ス

學區ニ屬スル學校資本ノ分ヲ賦

聯合學區ニ於テハ學務局ヨリ此ノ如ク合成シタル各學區ノ出税ス可キ地價ノ多少ニ從ヒ此ノ聯合學區ヲ做ス所ノ諸學區中資本ノ額ニシ價フ可キ金額ヲ等分ニ附與ス可シ而シテ此ノ金ヲ等分ニ附與スレハ各區ノ算計官ニ指令書ヲ贈ルニ由テ之ヲ能ス可シ

出税ス可キ地價ノ事ニ就イテハ第七十九章ヲ併セ觀ル可シ

一學區中ニ於テ他ノ學區中ノ校費ニ助力寄附スルコト有ル時ニハ此ノ寄附ヲ受ク可キ學區ノ有司ハ申狀ヲ他ノ寄附ヲ做ス學區ノ學務局ニ贈リ又之ヲ其算計官ニ贈リ以テ其狀中ニ定ムル所ノ金額ヲ自己ノ學區ノ學金者ニ及進セシメシメ得ス可シ然ル件ハ此ノ學務算計ノ局負ハ狀中ニ謂フ所ニ隨ヒ多少之ヲ及進セサルコト得ズ而シテ學金者ノ投票ハ實ニ此レ

ノ償フニ適ス可シ且ツ此ノ金ハ學務局ヨリ  
之ヲ及進スルノ時ハ即チ其學校資本ノ中  
ヨリ出ス可キナリ

又此ノ申狀ハ學務局ニ於テ之ヲ十分ニ及還ス  
ルヲ能ハズ或ハ自他ノ事故アルニ由リテ之ヲ  
算計官ニ贈呈スルヲ有ラバ即チ學校資本ノ  
款金ヲ補償スルガ為メノ申狀ト見做ス可シ是  
ニ由テ此ノ條例中ノ款件ノ如キハ最モ能ク適  
當スル所アルナリ

第五十六章 總計官ノ失算ヲ做ス時ニ

學務局ニ於テ之ヲ補治スル等ノ事ヲ論  
列ス

若シ今格別ノ事情アルニ際會ニ即チ一ニハ  
某地ノ統計官學務局ノ呈狀中ニ定ムル所  
ノ金額ヲ悉ク及進スルヲ能ハサル時ニ臨ミ  
ニニハ學務局ニ於テ濟貧負稅地ノ一部分タル  
某地ヨリ多少ノ用金ヲ課取セテ之ヲ要スル  
時ニ方リテ學務局ハ他ノ事務ヲ妨害セザラ  
シ爲メニ特ニ一ニノ吏員ヲ任シ此ノ如キ地方  
ノ事ヲ執リ行ハレテ可シ而シテ斯ク任用セラ

レタル吏負ハ名ニ其事務ヲ執ル所ノ地方ニ  
於テ其所相當ノ税金ヲ課収セシムル事務又テ  
統計官ノ有持ス可キ左幅ノ権力ヲ用テ  
從來課スル所ノ定稅年ニ一ノ賦役金ヲ課収ス  
ル時ノ如クニ盡カシ又其事務ヲ執リ行フ所ノ  
地濟貧稅地ニ屬スル時ハ即チ其定稅ヲ課収セ  
ル時ノ権力ヲ用テテ動作毒置セサル可カラズ  
而シテ此ノ濟貧稅地ニ於テ收納スル所ノモノ  
ハ即チ其貧人ヲ救濟ス可キノ稅ニシテ之ヲ  
課収スルニ當リテ其吏負ノ如キハ直ニ交換シ

テ其地ノ監督者ト做リ該地定稅ノ事ニ管セル  
統計局ノ文書及ヒ該地中ニ包有セラレ若シク  
ハ該地ヲ包有スル所ノ濟貧稅地ノ地價目錄并  
ニ租稅簿ヲ點檢シ隨意ニ採擷スルコトヲ得可キ  
ナリ

第五十七章 學務局ニ因テノ受借

茲ニ一學務局ニシテ一學校ヲ設立スルコトアリ  
若シ之ヲシテ盛大ナラシムレト欲シ若干ノ費  
用ヲ做スニ於テハ該局ハ即チ文部省ノ許可ヲ  
以テ五十年所ヲ踰越セスレテ許多ノ年曆ニ夢

延こテ之ヲ償却シアルコトヲ得可レ而シテ此ノ  
 目的ニ就イテハ學校ノ財本即チ此レニ接属ノ  
 所有物及ヒ土地ノ估價ヲ以テ之レカ保證ト做  
 シ多少ノ金貨ヲ借ルコトヲ得可レ然レテ其母金  
 并ニ此レニ適當ヤル所ノ利子ヲ相加ヘテ償却  
 スルニ於テモ學務局ヨリ之ヲ命令スルコトヲ得  
 可キナリ若シ該局及ヒ兼典者ト約諾決定スル  
 コトアラハ即チ此レニ其借受ニタル總額ト利子  
 トヲ併セテ五十年所ヲ出スレテ各年平均一還  
 賦ニ由テ償却スルヲ得ントス然ルニ該局若シ

斯ノ如キノ結納ヲ做サザルハ該局ハ減減賦  
 本ト看做シテ借用セシ總額ノ五十分一ヲ以テ  
 年ニ他ニ採去リ置クコトヲ要ス

受借ノ權カヲ使用スルニ就イテノ第三百三十  
 二條第三百三十四條ヲ通觀ス可シ

コウイクトリヤ女王ノ律令第十篇ノ第十号  
 及ヒ第十一号

夫レ此ノ如ク借受スルノ目的ニ就イテハ一千  
 八百四十七年ノ委員職掌條例ノ款件即チ此  
 ノ委員輩ニ因テ執行セラル可キ兼典者ニ關涉

スル所ノ款件ハ此ノ條例ト一致セラル可シ而  
シテ此ノ條例ノ目的ニ就キ是レ等ノ款件ヲ解  
明スルニ於テハ一種ノ特別條例ト做シテ照  
参考ス可シ而シテ彼ノ學務局ニシテ借用スル  
所ノ者ハ委負トシテ視考セラル可シ

兼典者ニ關スル委負職掌條例ノ款件ノ如  
キハ附録ノ第一百七十七葉中ニ在テ看出セ  
ラル可シ

ゼバブリツクウアルクス、ローン、コンミツコ  
ネー川即チ公衆事業貸附委負以下此ノ原  
字ノ下ル所

ハ假リニ直譯  
ハ字ヲ換用ス是等ノ事ハ文部省ノ保薦ヲ以テ

學技財本及ヒ土地估價ヲ以テ保證ト做サバ又  
自餘ノ保證ト做ス可キモノヲ以テセサル此  
ノ條ニ要請セラレタル所ノ貨幣ヲ貸付スル  
ヲ得可シ而シテ此ノ如キノ負債ハ五十年ニ滿  
エサル時限ノ内ニ償却シ其利子ノ如キハ毎年  
毎百ニ就イテ三分半ヲ負ハシムヘキ者トス

此ノ條ノ負債ノ詳細ナルコトハ第三章三十四  
葉ヲ觀テ識ル可シ

第五十八章 倫敦學務局ニ因テノ受借

文部省ノ許可ヲ以テ此ノ條例ニ遵ヒ倫敦學務  
 局ニ因テ借用スル所ノ若干ノ總額ハメトロポ  
 リタン、ボールド、フス、ウオルクス、直譯シテ借  
 受ル所ノ原簿字ヲ填ガ此レヨリ借受ル所ヲ得ベ  
 シ而シテ又此レニ由テ貸シ附ル所ヲモ得ベシ  
 一千八百六十九年「メトロポリタン、ボールド、  
 フス、ウオルクス、ローニアクト」直譯シテ借  
 受ル所ノ原簿字ヲ填ガ此レヨリ借受ル所ヲ得ベ  
 シ而シテ又此レニ由テ貸シ附ル所ヲモ得ベシ  
 如キ負債者ニ對シテハ記載セラレタル管理若  
 輩ハ殆モ倫敦學務局タリシ者ト同一方法ニ

適用セララル可シ而シテ從前借受ノ權ヲ委任セ  
 ラレタル總額ニ又此ノ條ニ從テ更ニ文部省ヨリ  
 委權セラレタル總額ヲ附加ス可シ

省府工部貸附議定法令ノ第三十七條ノ如  
 キハ即チ左ニ記載スル所ノ如シ其言ニ曰ク  
 「メトロポリタン、エシリユーム、テストラク」  
 直譯シテ借受ル所ノ原簿字ヲ填ガ此レヨリ借  
 受ル所ノ原簿字ヲ填ガ此レヨリ借受ル所ヲ得ベ  
 シ而シテ又此レニ由テ貸シ附ル所ヲモ得ベシ  
 一千八百六十七年「メトロポリタン、ボールド、  
 フス、ウオルクス、直譯シテ借受ル所ノ原簿字  
 ヲ填ガ此レヨリ借受ル所ヲ得ベシ而シテ又此  
 レニ由テ貸シ附ル所ヲモ得ベシ」  
 直譯シテ借受ル所ノ原簿字ヲ填ガ此レヨリ借  
 受ル所ノ原簿字ヲ填ガ此レヨリ借受ル所ヲ得ベ  
 シ而シテ又此レニ由テ貸シ附ル所ヲモ得ベシ



ニハ即チ此レ等ノ條例ニ被許タル保證ニ於  
 テ如斯管理者輩ノ借用スルヲ得テホー  
 ルドハ貸附スルヲ得又其總額ノ如キハ此レ  
 等ノ條例ニ從フテコブール、ロウ、ポールドニ  
 歸テ施濟保議條例ト直譯ス由リテ委權セラレタル所ニ  
 シテ其全有五百千磅磅計力ニ隨エガル者  
 ヲ借ラシメ為メナリ夫レ此ノ如ク管理者輩ニ  
 貸サントスル所ノ貨幣ヲ募集セン為メノ  
 目的ハ「ポールド」ハ此ノ條例ノ件ニ從ヒ集合  
 セル財本ヲ設立スルノ手段ヲ得可シ而シテ

其方法ハ此ノ「ポールド」カ此ノ條例ノ第一追  
 加條目ニ載録セル條例ノ目的ニテ貨幣ヲ募  
 集スルカ為メ財本ヲ設ケ得ルモノト同一方  
 法ニ從ヒ且ツ同一批准ヲ以テ做レ得可シ總  
 テ此ノ條例ノ如キハ恰モ貨幣ハ意ノ如ク  
 募集セラレ財本ハ最モ記載セシ目的ノ如  
 ク自在ニ得ラレテ適用ス可シ而ルニ唯一箇  
 事ノ其限ニアラザル者アリ即チ此ノ條ニ隨  
 ヒ要約セラレタル貨幣ハ彼ノ例ニ由リテ限  
 定セシ總數ニ加ヘテ「ポールド」ニ由リテ借用

之得へキ是ナリ夫し斯ノ如キ貸附金ノ利子  
若シクハ母金ニ就イテ如上ノ管理者ヨリシ  
テ「ポールド」ノ受納セシ總數ハ「メトロポリタ  
ン、コンソリデーテ、ローン、ス、フオニド」積  
渠募<sup>ハ</sup>貸<sup>ハ</sup>附<sup>ハ</sup>財<sup>ハ</sup>本<sup>ニ</sup>マ<sup>テ</sup>送<sup>遣</sup>ス可シ一千八百  
ト直譯セリ  
六十七年「メトロポリ、プール、アクト」借  
減<sup>ト</sup>直<sup>及</sup>ヒ之ヲ改正スル所ノ條例中某款  
件ニ關係セス「ポールド」ニ由テ貸附<sup>ニ</sup>タル總  
額ハ利子共ニ彼ノ管理者ヨリ「ポールド」ニ  
償却ス可シ而シテ其期限ノ如キハ六十年ニ

至ルヘカラズ此レ「ポールド」及ヒ如上ノ管理  
者輩ノ間ニ於テ結納シ大藏省ノ許可ヲ以  
テ成<sup>了</sup>ス夫し此ノ條ニ遵奉スル所ハ「ポールド」  
ハ貨幣ヲ以テ貸ス<sup>ト</sup>得<sup>ル</sup>管理者ハ之ヲ借  
ル<sup>ト</sup>得<sup>ル</sup>互ニ相救ヒ相親ミテ便利交通ス可  
シ是レ即チ此ノ條例ノ如ク管理者ヨリ若干  
ノ負債ヲ償却スルノ目的アレバ然ク做ス<sup>ト</sup>  
得<sup>ル</sup>可キナリ凡ソ「ポールド」及ヒ如上ノ管  
理者ハ總テ斯ノ如キノ約書契券及ヒ證據  
ヲ修行スル<sup>ト</sup>得<sup>ル</sup>且ツ此ノ條ヲ躬行實施ス

ルノ緊要及ヒ適宜タル可キ所ノ廢置ヲ做レ  
了ル可シ以上首府高工御領附

第五十九章 算計及ヒ會計ノ検査並ニ  
勘定セラル可キノ算計若シクハ點檢セラ  
ル可キノ算計

學務局ノ統計ハ各年第三月二十五日及ヒ第九  
月二十九日ニ至テ成完シテ決算ス可シ抑ニ  
此ノ算計ノ如キハ先ツ學務局ニ由リテ點檢  
セラレ而シテ之ヲ成完スル日ヨリ以後十四日  
以内ニ其會長タル者此レニ捺印ス可シ

算計ヲ做了レ之ヲ決定スルニ於テハ復々  
算計ノ規則ヲ觀望セヨ

此ノ如ク既ニ算計簿ニ捺印シテ後ニ其  
算計簿ハ復々點檢セラル可シ

第六十章 算計簿ノ検査

夫シ學務局ノ算計簿ヲ検査セント欲スル所ハ  
必ス先ツ左ニ記載スル所ノ款件ニ従ハザルコ  
ト得ス

第一款 學務局ノ檢數官タル者ハ必ス出納經費  
ノ數ヲ點檢ス可キ地方ニ在テ負人ノ救助ニ關

七レ算計簿ヲ検査スル所ノ検査官ト同一職ノ  
 人物ナラシメテ要ス而シテ該學区ハ必ス此ノ  
 經費ノ數ヲ檢ス可キ地方中ニ包括セラル、若  
 ト做不然レハ唯其學区ノ在ル所一箇ノ經費ノ  
 數ヲ檢ス可キ地方ニ而已限ラザル也即チ其  
 地方ニ於ケル濟貧事務局ノ検査官ハ注解シ  
 現レ更ニ學務局ノ検査ヲ管ス可シ是ニ由テ  
 此ノ案件ニ謂フ所ノ經費ヲ檢スベキ地方ナル  
 語ハ彼ノ負人救助ノ為メニ算計簿ヲ檢閱ス可  
 キ検査官ヲ特別ニ任スル所ノ濟貧稅地ヲ保セ

テ稱スル所ナリ、而シテ此ノ検査官ハ濟貧事務局  
 局ノ定ケル所ノ酬金ヲ受ク可ク又其酬金ハ  
 検査ノ費用并ニ其事ニ關シテ生スル所ノ種々  
 ノ費用ト共ニ學務局ニ於テ學校ノ資本金ヲ  
 以テ之ヲ償フ可レ而ルヲ若シ學務局ニ於テ  
 酬金ヲ出ダササルハ更ニ他ノ簡易ナル方法  
 ヲ以テ之ヲ請求シテ始メテ受納スルコトヲ  
 得可シ

第二款凡ソ算計簿ヲ検査スル所ハ或ハ學務  
 局ノ公所ニ於テス可ク或ハ學区中ニ於テ濟貧

事務局ヨリ定メレ所ノ地位ニ於テ不可ク又ハ  
學区若シクハ其一部ヲ包括スル所ノ連合區ニ  
於テ不可シ而シテ其時日ノ如キハ検査官ノ定  
ムル所ニ隨フ可シ但シ會長ノ既ニ統計簿上ニ  
捺印シタル片ハ其點檢ノ會計ハ可及的ハ急  
ナラントシ要ス

但シ毎年第三月二十五日第九月二十九日ノ  
後十四日ヲ出テガルノ間ハ検査ヲ做ス可カ  
ラズ尚ホ會計簿ハ事實ニ于テ改セル布令書  
二百七十曲彙即チ第十十三條ニ比較シテ參

看ス可シ

第三款凡ソ此ノ検査官ハ會計簿上ヲ検査スル  
ニ先タテ大約十四日計ニ於テ事務局ニ奉職シ  
検査ス可キ時日ト地行トヲ定メ其報告ヲ  
發セサル可カラズ

此ノ款件ニ於テハ報告ヲ做スルハ第十八章  
ニ記載スル所ノ式例ニ從ヒ検査官ノ公發ス  
可キ所トス然レモ第十條ニ示ス所ノ會計簿  
ノ事情ニ關涉セシ布令ニ通フハ更ニ事務  
局ノ書記官ヨリ事務局ノ屋内ニ揭示シ又

其外圍ノ門ヲニモ揭示シ又會計簿ヲ検査ス  
可キ該學校ノ門ニモ之ヲ揭示ス可キ抄紙  
ヲ造リテ以テ其報告ヲ公布ス可キヲ要  
ホスルナリ

第四款學務局ノ書記官即チ學務局ニ任用  
セラレテ多少ノ権カシ有持スルノ吏員ハ檢數  
ヲ做スニ方リテ必ズ其席ニ臨ミ檢數官ヲ供  
スルニ會計簿ニ干渉セル凡百ノ書籍策案  
證券文書等ヲ以テス可キ

檢數ヲ做スニ方リテ其席ニ臨ミ可キ吏員  
及ヒ司長ノ職學年ニ書籍文書等ノ附具スル  
ノノ方法ニ統イテハ二百七十四條ニ示セル  
會計簿ニ關セル所ノ布令即チ第十五條ヲ保  
有スルノヲ要ス

第五款學區中ニ於テ學費稅ヲ出ス可キ入  
ハ檢數ノ席ニ臨ミ檢數官ノ統計スル所ニ於テ  
異論ヲ發シ得ルモノアリ

第六十七條ニ示セル如ク學區中ニ學費稅ヲ  
出セル人ハ皆適宜ノ時ニ於テ一ノ代價ヲ出  
スノナクノ隨意ニ其學區ノ學務局ニ於テ管

理スル所ノ凡百ノ書籍文書ヲ檢閲ス可ク  
又之ヲ騰寫取替スルコトヲ得

又算計ニ關セル布令ノ第十一條ハ此ノ趣  
旨ニ就イテ更ニ多クノ物件ツ有セリ即チ  
其條ニ記スル所ニ據レハ會計簿ツ檢査  
ス可キ定日ニ先タツ三日ニシテ半年ノ總  
計記録簿ト其他算計ニ於テ必要ナル諸  
書籍ヲ學務局ノ室中ニ納メザル可カラ  
ス或ハ學務局ノ定ムル所ノ他ノ一室ニ収藏  
ス可シ是ニ於テ學區中ノ學費ヲ償フス

ハ是レ等ノ書籍ヲ檢見檢査シ且ツ抄寫スル  
コトヲ得是ニ由テ必ス公布ヲ發シ記録簿書  
籍等ヲ取納スル所ノ地所ト其檢閲等ヲ  
做シ得可キ時日ヲ告ケザル可カラズ  
又統計ニナル簿書ヲ檢査スル片ニ種ニ異  
論ヲ發スルモノ有レニ方リテ檢數官ノ履行  
ス可キ職守ニ就イテ布令ノ二十條即チ二  
百七十五條ヲ參看ス可シ

第六款檢數官ハ皆會計簿中ノ款條ヲ取捨  
シ又學務局ノ吏員或ハ其事ニ關係セル多クノ

官吏若シクハ某ノ聯合區及ヒ濟貧稅地等ニ  
於テ貧民ノ救助ニ干渉セル會計簿ヲ検査スル  
時ニ方リ是レ等ノ官吏ノ辦理會計ス可キ所ノ  
金額ヲ代理會計シ得ル所ノ人ヲ選擇シテ任用  
ス可キノ權カヲ有持セシメ又然セザルコトヲ得  
ザルノ義務ヲ負ハセリ而シテ又検査官ノ決定  
スル所ニ於テ不平ナル人ハ怡モ聯合區及ヒ濟  
貧稅地ニ在テ會計簿ヲ検査スル時ノ如ク一  
個ノ權利ヲ有シテ其統計ヲ改正セシコトヲ請  
フコトヲ得可シ

「ドイツトリヤ女王ノ律令百一篇第三十二章  
ノ第七号第八号ニ於テハ凡ソ濟貧事ニ關  
セル會計簿ヲ検査スル人ハ其事ヲ執ル所ノ  
地方ノ寺領年ニ聯合區ニ於テ貧民ヲ救助ス  
ル為メニ算定使用ス可キ所ノ金ニ關係セル  
會計簿ヲ検査究擬レ且ツ其款條ヲ取捨  
シ得可キ大勢力ヲ有スルコトヲ云ヒ又斯ノ如  
キ検査官ハ辦理會計ノ事ニ管セル一人ノ怠  
慢放疎ナルニ由リテ發生セシ所ノ損害缺乏  
ノ金額ヲ検査ス可キ簿書毎ニ精細ニ登錄



之又斯ノ如キ人ノ辦理等定スル所ニ係ルト  
 雖其人ニ對シ算計ノ謬錯ヲ非難スルニ至ラ  
 ガリシ所ノ一金額ヲ記載シ更ニ其人ノ検査  
 シタル所ノ簿書面毎ニ自他ノ人ヨリ納ケバ  
 キ所ノ金額若シクハ書籍或ハ契券或ハ紙  
 或ハ家具什器等ヲ記録セザル可カラズ  
 又同上ノ律令第九十一篇第九十一号十二  
 号ニ據レハ検査官ナル者ハ適當ナル金額ヲ  
 辦理ス可キヲ他ノ一人ニ委託シ一モ必要  
 ナル報告ヲ做サザルヲ以テ之ヲ不公平不條

理ト看做ス中ニハ假令其人検査ノ席ニ臨ケ  
 無キモ斯ノ如キ過當ナル委託ヲ做ス所以ノ  
 意ヲ書記ニ郵便若シクハ其他ノ方法ヲ以テ  
 之ヲ其人ノ住居ニ贈リ其事情ヲ通知セズ  
 ニバ有ルヘカラズ而シテ此ノ如キ格別ノ事  
 情ニ際會スル中ハ即チ其人ヲシテ自己ノ眼  
 前ニ出頭セシメ其擔當スル所ノ過當ナル  
 ニ關シテ訴訟ヲ做スヲ得セレク可キ餘裕  
 ノ時限ヲ生スル為メニ検査ノ事ヲ延期ス可  
 之是ニ由テ其人ノ陳述スル所ヲ詳ニ聽聞シ

即チ律法ニ據準シ且ツ其事情ヲ酌量シテ正  
適公平ナル方法ニ從ヒ宜シク決定スル所有  
ル可キナリ

又會計簿ヲ檢閲スルニ方リ此ノ算計ニ干渉  
シタル従前ノ官吏尚ホ其職掌ヲ執ルモノ有  
ラハ其檢數官ハ檢査スル所ノ會計簿中ニ記  
録セル不適當ノ處多ク或ハ過多ノ金額ヲ確知  
シ得可シ然レ氏斯ノ如キ時ニ方リ該官吏  
ノ任期既ニ滿チ其職ヲ解キ去ル片ハ即チ  
檢數官タルモノ自ラ會計上ニ於テ不足セル

金額ト既ニ浪費セシ負數トシ瞭然明算シ  
若シ其檢査ヲ做スニ先々千官吏ノ給料ニ費  
却レ或ハ他ノ正當ナル方法ヲ以テ濟負稅地  
ノ為メニシ或ハ聯合學區ノ為メニシタルノ  
實不否ラ究擬スル片ハ特ニ其金額ノ為メ  
ニ一簿書ヲ作りテ逐一辨明セサルト能ハズ  
「ウイクトリ」中女王ノ律令第九十一卷第二章  
十一号十二号ニ據テ領會ス可シ  
檢數官ノ決定スル所ニ抗シテ上訴ヲ做スノ  
事件ハ「ウイクトリ」中女王ノ律令第一百

一卷第三十五章七号八号ニ據ルヲ可シトス  
 即チ此ノ律令ニ遵フハ若シ茲ニ一個ノ人  
 アリ彼ノ換數官ノ受容シ或ハ拒絕シ或ハ  
 過當ノ責任ヲ負ハシムルニ由リテ大ニ其害  
 ヲ蒙リ憤懣泄ス所無ク遂ニ該換數官ヲ  
 シテ容受拒絕ヲ做シ或ハ過當ノ責任ヲ負  
 ハシムルノ條理ヲ白狀セシメント欲スル所  
 ハ即チ其換數官ハ此ノ條件ヲ具ニ一冊子  
 ニ登録シテ以テ其會計ヲ明示セサルコト  
 得不是ニ由テ既ニ拒絕セラレ或ハ過當ノ責

ニ任シテ哀嘆スル者ヲシテ其最初當サニ  
 償フ可キ所ニシテ未タ其手ニ有スル者ノ既  
 ニ會計簿中ニ記載セラレ及還セザル可  
 カラザル所ノ貨幣若シクハ什器等ヲシ  
 テ之ヲ他ノ没収ス可キノ權カシ有スルスニ  
 授與セシムル所ハ即チ上等法院ニ上申シ  
 彼カ如ク受容拒絕ヲ恣ニ行ヒ或ハ過當ノ  
 責ヲ負ハシムル等ノ事ヲ陳述シテ此ノ該院  
 ノ受理スル所ト為ス可キ命令書ヲ下サシ  
 コトヲ請求得ルヲ以テ彼ノ受容ヲ苦シムル所

ノ者ト拒絶責任等ヲ患フル者トノ為メニ  
ハ殊ニ至當至公ノ法律ト見做ス可シ而シ  
テ此ノ如キ受容拒絶等ノ事ヲ廢止セシ  
トスルニハ該法院ハ彼ノ愁訴者ノ口舌中  
ニ述ル所ノ款狀ヲ一一明瞭ニ決定セズハ  
有ル可カラズ即チ之ヲ審辨スレバ愁訴セ  
シ事情口舌書ニシテ必要ナル成文ハ檢數  
官ニ出ス可キ請求狀ノ解裁ヲ以テ編成  
スルモノナリ此ノ如クニシテ且モ其他事  
ニハ關係スルト無トス萬一此ノ法院ニ於

テ該檢數官ノ決定スル所ヲ以テ謬錯セリ  
ト者做ス時ハ其法院ノ規律ニ從ヒ此ノ不  
適當ニ受容セラレ拒絶セラレ或ハ過分ニ負  
フ者ノ為メニ曾テ出セル所ノ金ヲ更ニ復タ  
他ノ之ヲ及還ス可キ入ヨリシテ收受セシコ  
ト命シ得可シ且ツ又正ニ適當ト見做ス所  
アル時ハ該院ノ規律ニ從ヒ該簿書ノ關係  
スル所ノ濟負稅地若シクハ縣令學區等  
テ該命令ヲ施行スル所ノ喪入ノ費用ヲ償  
ハシメシトシ命シ得可シ

然レモ上條ノ成文律ニ據ルニ更ニ又左ノ款  
件ヲ明定セガル可カラズ宜シク第三十六章  
ヲ參看ス可シ夫レ改正ノ命令書ヲ得シカ  
為メニ上等法院ニ嘆訴セズシテ此ノ受容シ  
拒絶シ或ハ過分責任等ノ事ニ就イテ檢數  
官ノ定ムル所ハ果シテ正當ナリヤ否ヲ檢閲  
シ決定ス可キ所ノ濟急員事務委員訴ヘシテ  
其裁斷ヲ仰ク件ハ上條ノ件ニ就テ悲哀ス  
ルノ為メニ正當ナル判ヲ得可シ故ニ又  
此ノ疑案ヲ決定スルヲ以テ必要ナリト見

做ス件ニ即チ其手ヲ以テ其印ヲ押シ以テ  
命令ヲ發スルヲ該委員ノ為メニ正當ナリ  
ト云ハガル可カラス而ルニ其後ノ成文律即  
チ「ウイクトリヤ女王ノ律令第九十二卷  
第四章十一号十二号ニ従フ時ハ某ノ後見  
人若シクハ監督者或ハ他ノ吏員ノ辨理ス可  
キ會計簿ニ於テ檢數官ノ為メニ受容拒絶  
若シクハ過分責任等ノ一有ルニ際シテ該  
委員ニ上申シテ苦情ヲ訴フル者アル時ハ即  
チ此ノ委員ハ等ニ其事情ヲ酌量シ之ヲ決

定スルヲ以テ正當ナリト做ス可シ然ルニ若  
シ此ノ委員タルモノ檢數官ノ拒絶ヲ做シ過  
分ノ責ヲ負ハシムルヲ以テ全ク適當ニシ  
テ不公平ニ非スト見做ストイヘ民亦愁訴ノ  
者類ハ已ム可カラザル事情アリテ到底拒絶  
スル所ヲ省忍シ過當ノ責任ヲ減省スルヲ  
以テ適當便利ト做ス仲ハ即チ自ラ其印章  
ヲ捺シテ命令ヲ作り愁訴歎願者ヲシ  
テ斯ノ如ク拒絶ヲ做シ過當ノ責ヲ負ハレ  
タルニ由リテ生スル所ノ費用ヲ悉ク皆償却

セシメ而シテ後始メテ拒絶セシ所ヲ省忍  
ス可ク且ツ責任ヲ減省ス可キトヲ命ス可  
キナリ

又地方ノ政務局即チ自今濟貧事務管理  
局ノ稽留スル所ノ事務ヲ悉ク管理スル者ニ  
於テ上條ニ記載スル所ノ成文律ニ據テ應ニ  
檢査官ノ決定スル所果シテ適良正當ナリヤ  
ヲ確定ス可キ權カヲ有持スル而已ナラズ  
更ニ又公平ナル裁判ヲ做ス可キ權利ヲ保有  
スルカ故ニ彼ノゴヴィイクトリヤ女王ノ律令

第百一卷七号八号ニ所謂第三十五章ニ登録  
シ上等法院ニ上訴スル事件ノ如キハ常ニ無  
クシテ稀ニ有ル所ノモノト做ス而シテ其地  
方政務局ニ上訴スルニ方リテハ該地訴人ヨ  
リ該局ニ出スニ於テ彼ノ受容拒絶等ノ事ヲ  
做ス所以ノ條理ヲ述ベモ所ノ檢數官ノ文書  
ノ寫本即チ實ニ檢數官ノ會計簿中ニ登録ス  
ル所以ヲ知ルニ足ルモノト其拒絶過分ノ責  
任等ヲ受クル所以ノ證據ノ寫本トシテス  
可シ且ツ苦心注意シテ精細ニ其主張維持ス

ル所ノ情實ト條理トヲ縷述シテ其訴狀中  
ニ示サザル可カラズ

然リ而シテ其檢數官ノ為メニ過分ノ責任ヲ  
負フ所ノ人ハ其既ニ一度ヒ上等法院若シク  
ハ地方政務局ニ越訴シテ改正ヲ請求シ該院  
或ハ其局ニ於テ其序ヲ踰越スルハ訴訟ハ不  
正ナリトシテ之ヲ兼理セサル件ハ其次固ニ  
定額金ニ課収セラル、ニ當リ長官ノ目前ニ  
招致セラル、事アリトイヘ凡再ヒ其負フ所  
ノ過當ナルヲ越訴スルヲ能ハス又若シ斯

ノ如キ時ニ方リテ長官タルモノ其事ヲ理治  
フルトシテ嫌疑スレハ即チ上等法院ニ於テ嚴  
命ヲ以テ此ノ長官ニ指令シテ必ス其事ヲ執  
ラシム可シ

凡ソ會計總算ノ事務ニ關係シタル命令  
書ノ十六條以下二十一條ニ至ルマテノ間ニ  
記載セル款條即チ換數官ノ會計簿ヲ検査ス  
可キ義務ヲ論定シタルモノヲ參觀シテ其  
意義ヲ了解ス可シ

第七款夫レ換數官タルモノハ他入ヲシテ其席  
ニ出頭セシメ書籍若シクハ集算或シクハ證券  
若シクハ文書等ヲ作成シ或ハ又此ノ證券及ヒ  
文書等ニ關係シテ布告ヲ做スコトヲ要求スル事  
件ニ於テ既ニ記載セシ検査ヲ做ス時ノ如ク同  
一様ナル権力ヲ有持シ得可シ而シテ此ノ如ク  
ナル必要ノ事件ニ於テ換數官ノ令スル所ニ一  
致スルトシテ嫌疑シ或ハ之ヲ忽忽ニスル所ノ入  
又ハ故意ニ獲偏ノ布告ヲ作り或ハ押印スル  
所ノ入モ亦尚ホ最モ後ニ記載セシ検査ノ時ニ  
於ケルが如ク共ニ同一ナル贖金ヲ収メシムル



ヲ以テ適當ノ處置ト做ス

第三十三章ニ登録セシ所ノグワイツトリ中女  
王ノ律令多ク百一巻ノ七号ハ号ハ左ノ如ク  
ニ之ヲ確定セリ凡ソ濟貧稅ヲ收課スル一即  
チ貧入救助ノ事ニ關係セシ所ノ貨幣若シク  
ハ書籍若シクハ契約書並ニ紙及ヒ什器等ヲ  
有持シ或ハ之ヲ算計ス可キ人ヲモテ檢數官  
ノ為メニ其會計簿ニ關セル證券書トテ附與シ且  
ツ此ノ會計簿ニ關セル布告ヲ作り或ハ之ニ  
押印セシメガル可カラズ凡ソ此ノ如キ人ハ

檢數官ノ為メニ檢査ヲ做スノ時或ハ期限ヲ  
引延スルニ當リ此ニ出席シテ此レヲ領認ス  
ル一ツヲ慙忌シ若シクハ之ヲ忽畧ニシ或ハ該  
會計簿又該券等ヲ檢數官ニ附與シ又檢數  
官ノ要求ニテ其會計簿ニ干渉セル布告書ヲ  
作り若シクハ之ニ捺印スル等ノ事ヲ慙忌  
シ且ツ勿畧スル片ハ即チ其人ハ其任ヲ慙忌  
且ツ之ヲ勿心ニスルノ罪アルカ故ニ五十ヨリト  
リレゾノ贖金ヲ追徴スルヲ以テ適當ナリト  
ス然レ凡亦此ノ人ニシテ斯ノ如キ會計簿ノ

事件ニ關シ贋偽ノ布告ヲ作為シ或ハ之レニ  
押印スル片ハ即チ其人ハ假誓ヲ做スモノト  
取贖金ヲ同ウスルヲ以テ適當ナリトス尚ホ  
コウイクトリヤ女王ノ律令第一百三卷第廿章  
十一章ノ十二号十三号ヲ極閱スルヲ可ナリ  
トス

券ハ款某ノスヨリ課収スル所ヲ以テ適當トス  
ル所ノ貨幣若シクハ書籍若シクハ文書若シク  
ハ器什ハ既ニ檢數官之ヲ確定スル片ハ即チ所  
謂彼ノ検査ヲ做ス時ト同一ナル方法ヲ以テ此

スヨリコレヲ課収シ得可シ賜<sub>見</sub>唯<sub>可</sub>解<sub>ヲ</sub>而シテ此  
ノ如キ課収<sub>ノ</sub>做<sub>ス</sub>カ<sub>為</sub>メ<sub>ニ</sub>生<sub>ス</sub>ル<sub>所</sub>ノ費用<sub>ノ</sub>  
如キハ之ヲ検査事務ノ費用ト看做レテ可<sub>ナ</sub>  
リトス<sub>見</sub>第<sub>ニ</sub>注<sub>解</sub>ヲ

第一注解 檢數官ノ既ニ某ノ人ヨリノ課収ス  
ル以テ適當ナリト定ムル所ノ貨幣書籍契約  
書紙家什等ハ其ノ若シ檢數官ノ命ヲ受クル  
ノ後七日ヨリ以內ニ於テ償却授其セガル片  
ハ即チ檢數官ハ直ニ其最烈ナル權威ヲ以テ  
之ヲレテ償却授其セガルト<sub>得</sub>ガルニ至ラ

之ム可レ且ツ此ノ檢數官ノ課取スルヲ以テ  
適當ト定ムル所ノ貨幣ハ殆モ尚不正ナル債  
却ヲ做レ或ハ不正ナル債却ヲ做サシメ人  
ヨリシテ受取スル時ノ如ク必ズ之ヲ納メ得  
可シ然ルニ之ヲ取ルハ常ニ檢數官ノ請求  
ニ由リ或ハ一時特ニ之ヲ受取ス可キ權利ヲ  
有持セル人ノ請求ニ由リ「ウキル」ハ第  
四王ノ律令第百七十六卷第百九十六章第百一  
四号五号ニ説ル所ノ條款ニ從ヒ賸金料料ヲ  
収ムル時ト同一様ナル方法ヲ以テスルヲ可

ナリトス是レ却テ「ウキ」トリヤ女王ノ律  
令第百一十一卷第百三十二号ノ七号ハ号ニ據ル  
ナリ尚ホ「ウキ」トリヤ女王ノ律令第百九十一  
卷第百九章百一十一号百一十二号及ヒ其第百一十三卷第  
九章第百十号百一十二号百一十三号ヲ参考スルヲ要  
ス而シテ既ニ確定シタル金額ヲ課取セト  
欲スルハ其屬置ニ着手スルヤ必ズ檢數官ノ  
拒絶ヲ做レ或ハ過分ノ責ヲ任セレ後九ヶ月  
ヲ出テザル内ニ於テス可シ或ハ之ヲ出ス人  
ノ檢數官ノ決定スル所ヲ非トシ上等法院或

ハ地方政務局ニ對シテ歎願請求スル所ナル片  
ハ即チ該院局ノ之ヲ決定スルノ後九月ヲ  
過サルノ間ニ於テセエテ要スル旨イソトリ  
ヤ女王ノ律令第百三卷第九章十二号及ヒ  
十三号ニ據ル

又イソトリヤ女王ノ律令第百一卷第三十  
二章七号八号ニ據ルニ若シ書籍契約書及ヒ  
紙家ノ什物等ヲ納ム可キ入ニシテ之ヲ受収  
ス可キ權利アル人ニ對シテ之ヲ授與スル  
ヲ嫌惡シ又忽畧ニスル時ハ即チ其人ハ檢

數官若シクハ他ノ之ヲ受収ス可キ權利ヲ有  
セシ人ノ為メニ勤セラレ彼ノ監督者ノ相續  
人ノ為メニ貸借及ヒ家具其他其人ノ手ニ有  
スル凡百ノ物品ヲ償却授與スル丁ヲ嫌惡シ  
忽畧スル片ノ為メニ設ケル所ノ方法ナル收  
贖産ヲ命セラレ可キ丁ヲ確定セリ蓋シテ  
ヨージ第廿二世王ノ律令三十八卷十七号ニ  
據準スレバ監督者ノ此ノ如キ不良ノ意ヲ有  
スル片其人斯ク貸借若シクハ家具ヲ出不  
ニ至ルマテハ之ヲ普通ノ罪獄ニ繋ク可キノ

権威ヲ以テ二頁以上ノ審吏ノ手ニ委託セリ  
尚ホ一四ヨリ一七ノ第三世王ノ律令第四十九卷  
第一章五十五号ヲ考者ス可シ

又第二章注解検査ノ費用ハ學務局吏員ノ為メ  
ニ學校ノ資本金ヲ以テ消却セラル可キトシ  
知ラレト欲セハ第六十章ノ第一小部分ヲ注  
目ス可シ

第九款用ノ濟負事務管理局ハ此ノ章ノ款件  
ニ依テ時々此ノ會計簿ヲ檢シテ照査ヲ做ス  
カ爲メニ必要ナル規則ヲ制定スルヲ得

此ノ章ノ事件ニ關涉シ又濟負事務管理局  
ヨリ發スル所ノ會計簿ノ事件ニ關涉セタル  
命令ニ就イテハ附録二百六十八條ヲ考者シ  
テ其意ヲ領舊ス可シ

第六十一章過分ナル責任ヲ負フ時ニ  
之ヲ償フコトノ不正ナルヲ以テ却テ贖金  
ヲ課収スル事

夫レ自己ノ為メ若シクハ他人ノ為メニ其學校  
ノ資本中ヨリ枉ケテ浪費シ或ハ檢數官ノ為  
メニ發見非議セララル可キ所ノ金ヲ他ヨリ課

収シテ此レヲ補繕セシト欲シ舊計簿中ニ於テ  
曖昧ノ記録ヲ造ル所ノ學務局ノ吏員或ハ其  
撰繕スル所ノ司長ハ其狀明白ナルニ至ル  
トイヘ凡 其贖金ノ如キハ二十磅金ニ過キズ  
テ其在ケラ浪費セテ金額ニ二倍スル所ノ  
罰ヲ出サレムルヲ至當ト做ス

贖金ヲ収ムルノ方法ヲ知ラント要セハ宜ク  
第九十二章ヲ見ル可シ

第六十二章 會計簿ヲ公告スル事

檢數官ハ既ニ全ク検査ヲ做ラヌル時ハ其統計  
簿ニ捺印セザルコトヲ得ズ是ニ於テ學務局吏  
員ハ時ニ文部省ヨリ布達スル所有ル毎ニ其  
年案ニ據リ其款件ニ從ヒ學務局ノ受取スル  
所ト其費却スル所トヲ示指スル記録ヲ印刷シ  
之ヲ檢數官ノ決算簿ニ押印セシ後三十日以  
内ニ於テ統計局ノ各吏員 曉ル可シ 該地方  
ノ毎濟負稅地ノ監督者及ヒ文部省ノ官又等ニ  
寄贈セザルコトヲ得ズ而シテ學務局ノ吏員適當  
ト見做スハ此ノ記録或ハ之ヲ抄奪セシモノ  
ヲ該地ノ新聞紙又ハ其地方ニ發行セル新聞紙

ニ登録セラ世上一ニ公布レ能ク其地方中ノ租税  
ヲ出ス所ノスエヲレテ僅ニ六コヘニ区ニ過キ  
ナルノ費用ヲ以テ此ノ記録ノ寫本ヲ得テ其用  
ニ供スルコトヲ得セシム可シ

第一注釋種ニノ地方ニ於ル統計局ノ事業  
ヲハ第五十四章ノ見ル可シ

第六十三章學務局ノ失錯スル事件并ニ  
學務局ノ失錯差謬スル件ニ方リテ之ヲ  
處置スルノ方法

今夫レ又部省中ニ於テ万事十分ナリト做ス所

ノ究擬検査ヲ遂ケレ後ニ及ニテ學務局ノ果シ  
テ失錯有リレ事ヲ認識セシ時ニハ第一注釋種  
此ノ條例ニ記載セシ如ク指令ヲ下シテ該學務  
局ノ失錯スル所ヲ公布シ得可シ又此ノ指令ヲ  
用テ或ハ他ノ特別ナル指令ヲ以テ五人以下十  
五人以上ノ學務局吏員ヲ任スルコトヲ得可シ而  
シテ斯ノ如クノ任用セシ吏員ハ時ニ之ヲ易置シ  
何處ニモ缺員アル毎ニ之ヲ禪補シ此ノ如ク缺  
員有ルニ至ルハ先吏員ノ轉職ニ由ルカ將又  
免職ニ由ルカ抑ニ死没ニ由ルカ僅モ關シナル

ナリ且ツ既ニ前條ニモ示スカクノ能ク此ノ使  
負ノ數ヲ増減スルニ於テ自由ノ權ヲ得ヘキ  
者トス 第二條 解

第一條 解 學務局ハ之ヲ設立スルニ當リテ  
文部省ヨリ贈ルル冊ノ要求狀ニ隨ヒ之然タル  
學校供給ニ於テ欲スル所ヲ該要未狀ヲ  
贈ルノ後十二月以内ニ於テ全ク具備スル  
一能ハサル時即チ第二章第十一條ヲ考  
觀ス可シ或ハ文部省ヨリ學務局ノ設置  
シタル學校ヲ永久ニ保護維持ス可キ方法ニ

於テ或ハ又學校供給ヲ增加集收スルニ於テ  
學務局ヲシテ其職權ヲ盡サシメ之ガ爲メ  
ニ要未狀ヲ贈ルルニ方リテ此レニ從フ能ハ  
ル時ハ即チ第二章ノ比較參考者ス可  
シ或ハ時度不正ナル舉動ヲ許可シ或ハ又  
之ヲ發行スル時若シ學務局ノ設立シタル學  
校ニ於テ必ス傳奉ス可キ規則ニ隨フ一能  
ハハルニ當リ宜シク第二章ヲ參考者スル  
ヲ從トス即チ此レヲ補ヒテ失錯スルモノト  
謂フナリ且ツ文部省ハ學務局吏員ノ第一條



其ノ做スコ方リ定制ノ時日ニ於テ撰考スル  
一能ハカル時カ若シクハ該局ノ一時閉塞シ  
テ至リ事務ヲ執ラカル時カ或ハ其吏員中  
多少缺員アル時カニ在テ尚ホ其常時ノ如ク  
奉行シテハ失錯セシ時ノ如ク同一様ノ方法  
ヲ以テ之ヲ補置シ得ルモノナリ即チ第三十  
二章ヲ參看シテ了悟セヨ

第二陸解凡テ學務局吏員ノ失錯スル所  
アル中ハ文部省ニ於テ此ノ章ニ因フル所ノ  
然件ニ從テ其再置ヲ做シ新タニ吏員ヲ任  
用ス可ク又第六十六章ニ據リ學務局ノ吏  
員ハ其位地ヲ空リスルト有ル可ク而シテ新  
タニ撰考シテ其缺ヲ補任シ得可キトテ指  
令ニ得ルモノトス

又文部省ハ學務局吏員ヲ任用スル中ニ該吏  
員ノ爲メニ其給料タル酬金ヲ預メ定ム可  
キトハ宜シク第六十五章ノ款件ヲ見テ以テ  
事情ヲ知道ス可シ

凡ソ新タニ吏員特任ヲ命左ツ下ス時ニ當リ  
テハ其日ヨリシテ前時吏員タリシスハ殆モ

其死没セシ時ノ如ク至ク其他官ヲ空ウスルコ  
至ル可シ然レモ文部省ヨリ更ニ他ノ吏員ヲ撰  
擧シ之ヲ拜任セシムルコトヲ得ル而シテ此ノ如  
ク文部省ヨリ任用スル所ノ官吏ハ他ノ衆人ノ  
撰擧ニ由リ或ハ其他ノ順序ニ由リテ此ノ條例  
中ノ他ノ款條ニ憑據シ適當直正ノ進路ニ從  
ヒ該局員ト做リシ者ト至ク同一様ノ資格ヲ  
以テ之ヲ學務局吏員ノ中ニ排列ス可シ是ニ  
由テ如長ノスハ此ノ條例ニ行テ該局員ト向  
一様ノ職務ヲ踐行シ且ツ同等ナル權カヲ  
有持スル者ナリ

文部省ニ於テ任用セシ官吏ハ文部省ニ於テ隨  
意ニ廢置スルコトヲ得ル者ニシテ其之ヲ置クコ  
トヲ適當ト做スノ間ハ常ニ其職務ヲ奉ス可  
シ而シテ該省ニ於テ上條ニ言ヘル如キ學務局  
ノ失錯ノ更ニ改正セラル可キヲ知道シ又必要  
ナル事件ヲ悉ク成功セシメテ知道セタル時ニ  
當リ即チ指令ヲ下シテ始メテ學務局ヲ創立  
セシ時ノ如ク同一様ナル方法ヲ以テ該局員ヲ  
撰擧セシメテ命セラル可カラズ

是ノ故ニ斯ノ如キ指令ヲ以テ之ヲ確定スル片  
ハ其日ヨリシテ文部省ノ任用スル所ノ吏員ハ  
學務局員タルノ職ヲ解キ更ニ撰擧セラレシ  
人此ニ代リテ局員ノ地位ニ登ル可シ然レモ  
此ノ文部省ヨリ任用シタル吏員トテモ此ノ撰  
擧ニ當ル可カラズト言フニハアラス而シテ文  
部省ニ於テ此ノ指令ヲ下スニ至ルニテハ該省  
ヨリ特別ニ登用スルモノ外一人モ學務局吏  
員ト做ルコト得ズ

陸解學務局吏員ノ第一撰擧ノ事ニ關係

セル要件ヲ認メシト要セハ當サニ第二十九  
章及ヒ第三十一章第三十七章等ヲ參看  
シテ會得ス可シ

又學務局吏員ノ第一撰擧ヲ做ス可キ為メニ  
確定セル時ニ當リテ登用セラル、事無ク且ツ  
一時之カ為メニ閉局スルコト有ラレニハ文部省  
ハ尚該局員ノ撰擧セラレテ閉局スル時ノ如ク  
全ク同一様ナル方法ヲ以テ自由ニ此ニ處置  
スルコト得可シ

第三十二章及ヒ其傍陸等ニ比較シテ參看

不可レ凡ソ該章ニ論スル所ニ由レハ學務局  
ニ於テ第一撰擧ヲ做スカ為メニ定ムル所ノ  
時限ニ於テ能ク撰擧ヲ做ス一十ク或ハ一  
時閉局シテ其事務ヲ管理セズ或ハ定額ノ  
吏員ニ欲シアル等ノ事件ニ臨ミ文部省ハ該  
局ノ常時ノ如ク動作シテ失錯差謬モレ時ノ  
如クニ其處置ヲ做ス可キノ事狀ヲ斷然ト  
決定スルナリ

第六十四章吏員補任並ニ費用借金等ノ  
事ニ關涉シタル文部省ノ證書

凡ソ文部省ニ於テハ學務局ノ失籍セシ時ニ任  
用シテ其吏員ト做ス所ノ入ノ特命ヲ始メトシ  
斯ノ如キ入ノ生出スル所ノ費用ノ總額又斯ノ  
如クニレテ生出セシ所ノ費用或ハ豫メ算定ス  
ル所ノ費用等ヲ償ハシヌレガ為メニ出金セシ  
又タル所ノ借金ノ總額ヲ證明セシトシテ勤メテ  
做ス可シ而シテ斯ノ如キ證書ハ此ノ條例中ニ  
陳述セシ所ノ旨趣ヲ悉ク採用シ其任用セシ所  
ノ人物悉ク其任ニ適當シ其中ニ記載セシ費用  
ノ金額實ニ必要ナルモノタルコトヲ詳細ニ證

明スル者ナリ

第六十五章學務局ノ失錯ニ由リテ生出セル費用ヲ論ス

夫レ文部省ノ為メニ登用セラレテ學務局ノ吏員タル人ノ其義務ヲ盡スニ就イテ生出スル所ノ費用ハ其人ノ文部省ヨリ受領スル所ノ酬金ト共ニ皆他ノ學務局ノ諸雜費ト同一様ニシテ學校ノ資本中ヨリ償却セザル可カラザル者ト做ス而シテ其該資本ニ於テ若シ致スルコトアラズニハ此ノ條例ノ所説ニ據リテ學務局ヨ

リ課収スル所無クニハアラザルナリ是ニ由リテ文部省ニ於テ此ノ如キ費用ヲ償却スル前後ノ間學務局中ニ某ノ費用アルコトヲ證明シ又其多ク尙負テ任用セシコトヲ明白ニ徵證スル時ハ即チ能ク其費用ヲ生セシ所以ヲ體認シテ學校資本中ヨリ適宜ニ之ヲ償却スルヲ以テ恰モ適當ナリト看做スニ至ラズ

第五十三章ヨリ乃至五十六章ニテハ學校資本ノ事暗ニ干渉シ或ハ此ノ資本ノ偶々缺乏スル時ニ方リ之ヲ課収ス可キ方法等ニ就

イテ論列セリ

又學務局吏員ノ文部省ヨリ登用セラレシ時ニ於テハ該局員ハ此ノ條例ニ記載ニタルカ如ク文部省ノ必緊要ナルヲ觀テ確定セシ所ノ定額金ヨリ許多ナル借金ノ母子ヲ以テ學校資存中ヨリ償却ス可キ所ト做スコトヲ得ズ

第六十六章學務局吏員ノ分離スルノ事情ヲ論ス

學務局ノ失錯吏員ノ任用等ノ暗態既ニ說破シ了レリ又文部省ニ於テ一學區ノ學務局ヨリテ

以上大都會ト  
記スル者ハ即チ  
統本院ノ謂ニ

失誤ヲ為セシモノト看做シ或ハコノ條例上ノ成規ニ背馳シ其職ヲ全クシ得サル時ハ

本院ニ於テ指令ヲ下タシ諛展學務局員ヲシテ其職ヲ辞セシメ新クニ他人ヲ撰其闕ヲ補フテ可ナリ蓋其解職ス可キ吏員

ハ此指令中所定ノ時日ヲ期シ期日ノ後ニ及テ其職ヲ辞ス可ク又統學院ノ新員ヲ送奉スルモ同シク右期日ノ後ニ於テス可シ而シテ其送奉ノ方法ハ猶ホ当初局員撰奉ノ時ノ如クス可シ仍テ此條例中載スル所ノ撰奉法條款ハ則チ新

イテ論列セリ

又學務局吏員ノ文部省ヨリ登用セラレシ時ニ於テハ該局員ハ此ノ條例ニ記載ニタルカ如ク文部省ノ必緊要ナルヲ觀テ確定セシ所ノ定額金ヨリ許多ナル借入金ノ母子ヲ以テ學校資本中ヨリ償却ス可キ所ト做スベシ得ズ

第六十六章 學務局吏員ノ分離スルノ事情ヲ論ス

學務局ノ失錯吏員ノ任用等ノ情態既ニ說破レ了レリ又文部省ニ於テ一學區ノ學務局ヲ以テ

失誤ヲ為セシモノト看做シ或ハコノ條例上ノ成規ニ背馳シ其職ヲ全クシ得サル時ハ統學院ニ於テ指令ヲ下タシ該區學務局ノ吏員ヲシテ其職ヲ辞セシメ他ノ人ヲ拱奉シ其闕ヲ補フテ可ナリ蓋其鮮職ス可キ吏員ハ此指令中所定ノ時日ヲ期シ期日ノ後ニ及テ其職ヲ辞ス可ク又統學院ノ新員ヲ送奉スルモ同シク右期日ノ後ニ於テ不可シ而シテ其送奉ノ方法ハ猶ホ当初局員拱奉ノ時ノ如ク不可シ仍テ此條例中載スル所ノ拱奉法條款ハ則チ新

官撰挙上ニ於テモ亦用フ可キモノトス  
 蓋統學院ニ於テ本章所論ノ権力ヲ実行スル  
 ハ持ニ學務局吏員ノ失誤アルキニ於テノミ  
 ナラス使局ノ施為其宜ヲ得ス條例ニ照シテ  
 職掌ヲ尽サハルモノト看做ス片ハ又統學院  
 ノ権力兼ク之ヲ處決スルヲ得可キモノトス  
 第六十三章ヲ參考ス可シ  
 又統學院ニ於テハ例年申告狀ヲ作り前年所行  
 右指令ノ事實ト其之ニ及ヒシ所以ノ原因トヲ  
 詳記シ之ヲ公會ニ附スルヲ法トス

第六十七章

申呈狀作成法検査法及地方官ノ申狀作  
 成法ヲ論ス

凡ソ後章所載各地方官ハ學務局長官選舉ノ日  
 ヨリ四月前ニ於テ初學ノ教育ヲ受ク可キ児童  
 ニ就キ所謂申呈狀ヲ作り統學院ニ上呈スルヲ  
 法トス蓋此申呈狀ハ元統學院ノ要需ニ出ル所  
 ノモノナレハ特ニ前段一定ノ期日間ニ於ケル  
 而已ナラス時トシテ臨時之ヲ具呈セシムル  
 アリ然レモ例年僅ニ一回ニ過キサルヲ法トス



統學院ヨリ右申呈状ヲ出タスヘキ指令ヲ下  
 ス片ハ其學區ニ於テ速ニ之ヲ作成シ書中勉  
 ノテ明瞭ヲ主トシ定ツ一十八百六十二年ノ  
 人口簿ヲ憑拠トシ其人員ヲ算計シ且現在ノ  
 數ヲ舉ケ其他租税ノ總額並テ一十八百六十  
 九年制定ノ濟貧税集収條例ニ準シ出税スル  
 モノ、人員及ヒ該區域内初學々校々數既ニ  
設立  
スルモノト持サニ開カニト等ニ至ルマテ詳  
スルモノトフ合算スルナリ細之ヲ記載シ一目瞭然メラシムルヲ要ス加  
 之該區ノ人口ニ應ル從來ニ及テ相當タル可キ

校數ノ多寡ヲ計リ併シテ之ヲ載スルヲ法ト  
 ス

又本書第三章ノ成例ニ拠レハ右申呈状ヲ作  
 成スルモノハ則其區内學校公私トモニ都テ  
 校長若クハ教師ノ定制作成スヘキモノトス  
 凡各學校ニ於テ校長ナリ教師長ナリ所謂申  
 呈状ヲ作定セント欲セハ必ス次条所載ノ件  
 ヲ了スルヲ要ス

第一學校ハ(甲)公立ニシテ教育上ノ契券ヲ附  
 與シ校長ヲ置キ其契券ニ依テ他ノ教師ノ如

キハ随意ニ指揮任用スヘキモノナルカ或ハ  
 (乙)私立ニシテ教師委員共ニ私ニ登用セラレ  
 シヒノニシテ一ノ契券ヲ有セサルモノナル  
 カ又ハ(丙)教師ノ特カラ蓋シ危害ヲ憚ラス責  
 督ヲ任シ以テ管理スル所ノモノナルカ  
 第二右教師ノ危険ニ耐ヘ其責ニ任スル所ノ  
 学校ハ(甲)該校一般ノ器物果シテ何人ニ屬ヌ  
 ヘキモノナルカ(乙)又其校中人状況如何ナル  
 カ

第三學校ニ於テ講説スル所ノ教法ハ如何ナ

ル宗派ニ關係スルカ且其校ノ生徒ヲレテ一  
 個人ノ特別ナル宗教上ノ訓誨ヲ受ケシメン為  
 メ礼拝堂ノミ主トスル所ノ講堂ニ出席セシ  
 ムルヲ要望マルカ將タ否ラサルカ  
 第四衆生徒ノ学室及ヒ其階級室ハ男女ノ混  
 交ヲ判然別分スヘキカ將タ否ラサルカ  
 新ニ是等ノ室ヲ建築シ或ハ之ヲ擴充スルニ  
 際シテハ必ス先ツ其大成ニ至リシ生徒ヲ配  
 置スヘキ目途ヲ制定ヒサル可ラズ而シテ此  
 室ハ皆習學スヘキ室ナルカ故ニ決テ他ノ用

三完ツヘカラス及合ハ教師タルモノ若シ一  
室ニ居住シ他ノ室ヲ以テ習學スルカ如キハ  
其新ニ建築シ擴造スル者ハ皆習學ノ室タル  
ヘキナリ

第五 學校ハ(甲)教師並ニ童男童女ノ為メ特  
別ナル家屋ヲ設立スヘキヤ否ヤ

混合セシ童男學校ト云ヘハ男教師ノ教授ス  
ル學校ニシテ女子亦之ト共ニ習學スル所ヲ  
云ヒ又混合童女學校ト云フハ女教師ノ教  
授スル學校ニシテ男子モ亦合同シ教育セラ

ル、モノヲ云ナリ

第六 第四号申呈狀中ニ記載セル各室ハ特  
ニ教授所トナスヘキ為ニ設ルヤ或ハ之ヲ教  
場ト做サ、ルキハ其他何等ノ用ニ借シ得ヘ  
キヤ

若シ教師タルモノ其教授スヘキ室内ニ於テ  
睡眠喫飯等ノ舉行ヲ做シ其他礼拝敬神等ヲ  
始メ諸般ノ事ニシテ苟モ教授外ノ業ヲ履行  
スルカ如キハ則定法上ニ悖戻スルヲ以テ上  
条ノ如キ疑問ヲ發スルニ方リ必ス確當ナル

答辭ヲ出スル能ハサルナリ

第七 上条ニ記載セシ如キ學室ハ皆特ニ(甲)

通常學校ノ用ニ供スルカ為メニ設クルヤ或

ハ(乙)日曜日學校ノ為メニスルヤ又(丙)此兩學

校ノ為ニスルモノナルヤ

上条ト同シク學室内ニシテ或ハ居住或ハ高

法其他禮拜等ノ夜ヲ做スアレハ則チ之ニ對

フルニ方リ亦確實ナルヲ能ハサルモノトス

第八 何レノ室カ夜學校トシテ之ヲ用フヘ

キモノナルヤ

第九 今新ニ設立スル所ノ學室或ハ從來既

ニ成立セシ所ノ學室ヲ擴大センコトヲ熟思ス

ルニ方リテハ(甲)其學室ノ廣狹ヲ定ムル為メ

其建築物ヲ增加シ或ハ之ヲ更革スルヲ以テ

的當トナスカ又ハ(乙)何レノ時ニ於テ成就ス

ルヲ可トスルカ

第十 學校ニ於テ一時習學ヲ休止シ其資本

金ヲ集收スル時ニ方リテハ專一ニ其費ヲ擔

任主理スル所久モ其(甲)童男(乙)童女(丙)小兒

合シテ裁許兒童ノ為ニ器什其他一切ノ用具

ヲ供給セント欲スルヤ

第十一 教長ノ姓名及ヒ履歴ヲ諒知セシメ

ヲ要ス郎十(甲)某月日誕生(乙)奉職ヨリノ年月

(丙)始テ學費ヲ擔任セシ月日(丁)參政委員ヨリ

證書ヲ受ルト否ラサルト(戊)其證書ノ等級(己)

其管理スル所ノ學校統學院ヨリ年々支給ス

ルト否ラサル等ノ費是ナリ

教長トハ則チ他ノ教師ト同一ナル學則ヲ奉

シ臺ヒ他ノ指揮ヲ受ケスシテ舉行スル所ノ

教師ヲ云フ故ニ一學則中ニシテ僅ニ三名ヲ

置テ以テ的當トス是レ則チ童男童女又小兒

ノ三部分ヲ各別ニ教授スルヲ以テナリ

第十二 開校習學ノ時日ヲ諒知セサルヘカ

ラマ郎十毎日學校ニ於テハ(甲)一週毎ニ幾何

日開校スルカ(乙)毎日幾何時開習學スルカ(丙)

毎年幾何週開校スルカ又夜學校ニ於テハ(甲)

何レノ月ニ方リテ開校スルカ(乙)一週日中何

レノ夜ニ於テ開校スルカ(丙)毎夜幾何時間習

學スル等ノ費ヲ云フ

第十三 月々其前月ニ於テ出席セサル所ノ

生徒ヲ點檢シテ之ヲ瘵除スヘシ其餘ノ生徒  
 員數及ヒ其年齡ヲ冊簿ニ書記スヘキナリ即  
 十(甲)三歳以下ノモノ(乙)三歳以上六歳以下ノ  
 モノ(丙)六歳以上八歳以下ノモノ(丁)八歳以上  
 十三歳以下ノモノ(戊)十三歳以上二十一歳以  
 下ノモノ(己)二十一歳以上ノモノト各之ヲ區  
 別スルヲ以テ的當ナリトス  
 第十四 申呈狀ヲ作成スル日ニ方リテ出校  
 セシ生徒ノ員額ナリ  
 第十五 現今學校ニ上席シテ簿冊中ニ姓名

ヲ記載スル生徒ノ員額即チ(甲)半課ノ教授ヲ  
 受クル為メニ出校スル者(乙)習學時限條例ヲ  
 遵守シテ完全ナル教授ヲ受ル者等是ナリ  
 第十六 毎週納ムル所ノ謝金簿冊上ニ登載セ  
 ル數額即チ(甲)一圓ヘンニト貨幣ノ名目本ノニ  
錢〇一七ニアタル  
 以上ニ圓ヘンニト以下(乙)二圓ヘンニト以上四圓ヘンニト  
 以下(丙)四圓ヘンニト以上六圓ヘンニト以下(丁)六圓ヘン  
 ニト以上九圓ヘンニト以下(戊)九圓ヘンニト及ヒ(己)  
 九圓ヘンニト以上ナリ其他(庚)一モ謝金ヲ納メサル  
 モノアリ是レ所謂免謝學校ナルモノ是ナリ

第十三十四十六ノ四号陳述スル所ニ拠レハ  
童男童女兩学校ノ異ナルニ由リ謝金モ亦随  
テ差異ヲ生シ且又通常學校夜學校ニ就テ斯  
ノ如ク各種ノ差異アル所以ナリ

第十七 池ノ濟貧稅地ヨリ来リ學フ所ノ記  
名簿中其名ヲ記セル生徒ハ即チ(甲)童男(乙)童  
女(丙)六歳以下小兒ノ員數及ヒ該濟貧稅地ノ  
名目等トス

第十八 教科即チ通常日カ學校及ヒ夜學校  
ニ於テ教授スル所ノ科目ニシテ以下掲クル

所ノ如シ(甲)讀法(乙)習字(丙)算術(丁)聞書(戊)教法  
訓誨(己)歴史(庚)文典(辛)地理學(壬)鐵工(癸)其他足  
等ノ諸技ヲ説明スヘキ所ノ趣旨トス

第十九 學校ハ只教授ノモノヲ主トスルモノ  
ナルヤ若シ然ラザルハ若干員ノ生徒(甲)寄  
寓シ(乙)寄食(丙)給衣ヲ得ルカ

第二十 學校ハ貧人ノ為ニ設クル者ナルヤ  
將タ勸競ヲ主トスルモノカ罪過アルモノヲ  
改良セシム可キ為メニスルモノナルカ幼稚  
ヲ撫育ス可キ為ナルカ究獨ノ者ヲ救恤スヘ

キモノナルカ或ハ通常寄附学校ナルカ

第二十一 学校ハ寄附ヲ受クヘキカ若シ之

ヲ受ルヤハ(甲)其多寡放許ナルカ(乙)寄附スル

所ノ物具ハ何品ナルカ(丙)寄附物ハ学校ノ

為ノ或ハ教授上利便ノ為ニ他ニ交與ス可キ

モノナルカ

第二十二 学校ノ為ニ通信ヲ做ス所ノ文名記

号及ヒ倫敦府ヨリ郵致ス書牘ノ表書体裁等

第六十八章

申呈状受得ノ方法ヲ論ク

凡ソ統學院ニ於テ申呈状ヲ得ンヲ欲スレハ

先ツ其模式ヲ成作セサルヘカラス而メ其模式

ハ地方有司ノ所要ニ従ヒ多少之ヲ附與ス是ニ

於テ其申呈状中其需ムル所ヲ登録スヘキ各学

校ノ長官教長必ス其所見ヲ記シ以テ模式ヲ填

塞シ然ル後一定ノ時期間ニ於ニ地方ノ有司ニ

送呈スヘシ

初回ノ呈状ニ就テ確定セシ時日ハ一千八百

七十一年第一月一日是ナリ而シテ其長官及

教長タル者其呈状ト為ス可キ模式ニ書載ス



ルヲ肯セスシテ之ヲ嫌惡拒絕スルヲアリ  
第七十一七十二兩章ニ於テ之ヲ詳ニス就テ  
見ルヘシ

第六十九章

地方有司ノ申呈狀ヲ作成スヘキモノヲ

論ス

凡ソ申呈狀ヲ作成スルハ條例上ノ成規ニ批准  
シ首府ニ於テハ學務局中專任ノ吏員之ヲ任シ  
縣地ニ在テハ其參政官之ヲ擔當シ濟貧稅地ニ  
テハ別ニ人ヲ選テ之ヲ命シ或ハ該地ノ監督者

タルモノヲ以テ之ニ充ツヘシ然レモ若シ其地  
ノ既ニ學務局ヲ設置スルモノナルハ該局吏  
員ヲシテ作成セシムルヲ法トス此時ニ方テハ  
固リ參政官監督者等ノ力ヲ假ルテ之ヲ要セザル  
モノトス

抑此申呈狀作成ノ為メ任用スル所ノモノハ宜  
ク下段所示ノ方法ヲ以テ之ヲ選舉スヘキモノ  
トス其法タル統學院ニ於テ適宜ヲ計リ果シテ  
其可ヲ視ルハ指令ヲ下シテ其地ノ監督者ヲ  
始メ長光集會ヲ開ク可キ權理ヲ有スルモノヲ

三テ更ニ集會ヲ行ハシメ以テ所謂呈狀作成事務專任ノ有司ニ員以上ヲ選擇登用セシムルヲ法トス

長老集會ヲ開クヘキ権カヲ有スルモノト其集會中發言ノ法トノ如キハ本書第三章傍註ヲ見テ之ヲ知ルヘシ

而シテ既ニ其選舉ニ中リ任用セラレシモノハ所謂申呈狀ヲ作ルニ當リテハ統學院ノ指令ヲ受ケ副助入ヲ雇用スルヲ得其酬金ノ如キハ國幣官所定ノ法ニ依テ之ヲ給與ス而シテ其他

諛件擔任有司ノ為メニ要スル所ノ費用ハ苟モ適宜ヲ踰ヘサル以上ハ同シク國幣官制定ノ法則ニ從ヒ悉皆統學院ノ償却スヘキモノトス但國幣官ニ於テ酬金ヲ定ムルハ只統學院ヨリ特別ノ命令ヲ以テ副助人ヲ登用スル時而已ニ限り常ニ然ルヘキモノニ非ラス須ラシク之ヲ了スヘキナリ

第七十章

申呈狀作成ノ除有司ノ失誤アルニ當リ其処置法ヲ論ス

何地方ヲ論セス此條例上所要ノ申呈状ヲ作成  
スルニ當リ若シ其有司ノ失誤スルヲアルハ  
統學院ニ於テ其人ヲ黜ケ更親員ヲ任用ス蓋既  
ニ其任ニ補セラレ、其地方ノ有司ト同ニ  
ク權威勢カヲ有スルモノトス

第七十一章

統學院検査官ノ検査法ヲ論ス

柝申呈状ノ検査官ヲ任使スルハ統學院ノ権内  
ニ有スルモノニシテ該院既ニ之ヲ命及状亦其  
検査官タル者申呈状ノ可否ヲ閱シ状中果シテ

條例上所要ノ記載ヲ全フシ精細完備ヲ得ルヤ  
否ヲ査ラヘ且其学校ノ確實適當ヲ得ルト得サ  
ルトヲ詳ニシ而シテ後其生徒ヲ黜視ス蓋此時  
ニ到リ若シ其申呈状ノ未夕就ナル者アルハ  
則検査官之ヲ糾クシ既ニ成ルモ失誤アル者ト同  
視シ用ヲ為サ、ル者ト視為シ之ヲ処分ス

統學院登用検査官ノ検査スヘキ学区ヲ始メ  
共人名証書等ノ事ハ所録二百四十四葉ヨリ  
三百五十一葉ニ至ルノ間ニ之ヲ詳ニス

第七十二章

模式書載法及模査官ノ査閲ヲ受肯セケルモノヲ論ス

今若シ校長ナリ教師ナリ申呈状ノ模式書載ノ事ヲ嫌疑シ又ハ学室監視生徒試験其他書籍簿冊ノ査閲等書簿抄寫ノ事ニ至ルマテ之ヲ受クルヲ肯セサル者ハ其枚タル其地ノ為ニ初学ノ教育ヲ全フセザルモノトシ視ルヘシ  
学校ノ如斯者ハ其學展中ニ於テ一般ヨリ学校供給ノ費用ヲ出サシムルニ當リ統学院ノ注視ヲ得サル者トス第八章ヲ見ルヘシ

第七十三章

一般公同ノ檢査事務ヲ論ス

此條例ニ掲載スル所ノ事件ニ從ヒ一般公同ノ檢査ヲ做スニ方リテハ左ノ條款ニ準據スルヲ要トス

凡ソ一般公同ノ檢査ヲ做スハ學区内ニ於テ學費ヲ供給スルニ関シ若シ統学院ノ制決スル所ヲ以テ之ヲ不便トシ困難ノ苦情ヲ發スルキノ如キ(第九章十三節ヲ看ルヘシ)又ハ学區ヲ劃定スルニ就キ人ノ請求スル所ノア

ルニ当リ〔第十二章ヲ看ル可シ或ハ又學務局ノ吏員ヨリ土地ヲ購求シ或ハ合議賜論ヲ俟タス他ノ方略ヲ以テ隨意ニ其土ヲ領収スル等ノ事ニ関シ土地整理ノ條例ヲ遵奉施行セシテ企望スルノ如キ〔第二十章ヲ看ルヘシ又聯合學區ヲ設置シ或ハ之ヲ解放スルヲアルニ由リ其不利ヲ悲歎スル者アルカ如キ〔第四十一章四十三節ヲ看ルヘシ〕其他區外ノ學校ヲ維持セシムル為ニ支給費用ヲ助成俾補スヘキノ命令ヲ発行シ或ハ之ヲ廢止セント

欲スルモノアル等ノ時ニ於テ之ヲ施行スヘキモノトス

第一 統學院ハ検査ヲ施行スヘキ所ノ吏員ヲ任用スルヲ得ヘシ

第二 前款ニ述ル如ク統學院ニ於テ既ニ其任用ヲ受クル吏員ハ其任セラレタル所ノ職掌ヲ履行シカ為メニ其當ニ検査スヘキ學區ノ近傍ニ於テ先ツ利便ノ地ヲトシ各人ノ上申スル證書訴狀等ヲ受理シテ詳カニ之ヲ検査シ時トシテハ其他ニ滞在スヘキ期日ヲ緩フシ以テ検査

上ニ就キ更ニ發生スル所ノ争論抗議ヲ再聽シ  
テ復ヒ之ヲ検査スルコトアルヘキモノトス  
允ソ検査ノ報告ハ統學院ニ於テ検査官ヲシ  
テ一処ニ停止シハ延期停止ノ期限ハ必スレ  
モ例スル所ニアラスレテ未タ検査セサル  
ニ先テ一週日以内ニ於テ之ヲ公発スルヲ適  
当トス

第三 此ノ如ク其任用ヲ受クル吏員ハ検査ノ  
結果ヲ詳ニ記載シ其趣意ニ就テ自己ノ考案ヲ  
記シ其説ヲ為ス所以ノ條理ヲ説明スヘシ且檢

査上ニ就テ更ニ發生セシ争論抗議等皆宜ク之  
ヲ登録シ又之ニ就テ自己ノ考説ヲ付シ以テ申  
牒ヲ作り之ヲ統學院ニ贈呈セサルヘカラス而  
レテ統學院ハ其贈呈セル申牒ノ副本ヲ謄写シ  
以テ之ヲ學務局ニ頒布ス其學務局ヲ設置セサ  
ル地方ニシテ當ニ検査スヘキ処ノ学校ヲ有ス  
ル縣地ノ如キハ之ヲ市尹ニ托シ又濟貧稅地ノ  
如キハ其管 監事等ニ附与シテ永ク之ヲ儲有  
セシムルヲ法トス此ノ如ク之ヲ儲有セシムル  
中ハ必ス其所以ヲ記シテ之カ報告ヲ公発セサ

ルヘカヲマ

儲蓄スル所以ノ報告ヲ公衆スルノ方法ニ就テハ第八章ヲ看ルヘシ

第四 統学院ニ於テハ前条ノ如キ処置及ヒ検査ヲ做スニ就テ生スル所ノ費用ハ之ヲ償却スルニ方リ其孰レニ賦課スルヲ以テ適當ナリトスヘキノ決定ニ從ヒ或ハ學務局ノ費用トシテ之ヲ學區中ヨリ出サレメ或ハ其検査ヲ請求セシ者ヨリシテ悉皆之ヲ細メレムヘシ而シテ學區中ヨリ出ス所ノ費用ハ宜ク之ヲ學務局ヨリ

償却スヘキ正当ノ員債トナスヘク又學務局ヲ設置セサルノ地方ニ於テハ之ヲ統計局ヨリ納ムヘキモノトシ又検査ヲ請求セシモノヨリ償却セシムル中ハ或ハ聯結共同シテ出サレメ或ハ各自ラシテ納メレムヘキ通算ナル員債ト見做シ以テ課収スヘキモノトス且統学院ハ既ニ適當トサス目的ヲ決定シ得ルニ於テハ検査ヲ指令スルニ先テ請求人ヲ要シテ此ノ如キ費用ヲ償却スヘキノ確證ヲ出サレメ然レ後始テ之ニ着手スヘシ若シ其人ニシテ之ヲ肯セサル

アレハ則テ検査ヲ遂ケルモ亦決シテ妨ケナシトス

第七十四章

児童ノ学校ニ通學スルモノニ就テ論ス  
凡ソ學務局ハ時々統學院ノ許可ヲ受ケテ次條ノ如キ目途ヲ達成セシカ為ノ附加條例ヲ作定スルコトアリ

本章ニ述ル所ハ唯學務局ヲ設置セシ所ノ學區内ノミ適用セルモノニシテ是ノ如キ學區内ニアラスシテ他ノ區域ナル学校へ強テ生

以下

徒ヲ出校セシムルコトニ關シテハ此條例中ニ於テ一ノ條款ヲ含有スルコトナレ且本章ノ趣旨ニ就テ更ニ附加條例ヲ作成スルト否ラサルトトノ如キハ學務局意見ニ隨フヘシ但斯ク如キ附加條例ヲ作成スルト亦モ統學院ノ許可及ヒ内閣ノ指令ヲ受ケテ確定スルニ非ルヨリハ必ズ之ヲ實地ニ施行スヘカラサルナリ  
學務局吏員ハ本章ノ趣旨ニ從ヒ附加條例作成スルコト以テ適當ト考定スルコトハ之カ為メ



モ亦決シテ妨ケナシ  
スルモノニ就テ論ス  
ノ許可ヲ受ケテ次條  
局ノ附加條例ヲ作定  
句ヲ設置セシ所ノ学  
ニシテ是ノ如キ学区  
域ナル学校ニ強テ生

關シテハ此條例中ニ  
ルコトナレ且本章ノ趣  
ヲ作成スルト否ラサ  
先ニ隨フヘシ但斯ク  
ルトモモ統宗院ノ許  
テテ確定スルニ非ル  
施行スヘカラカルト  
旨ニ從ヒ附加條例作  
定スル所ハ之カ為メ

以下十葉訂正ノ上雜誌ノ資料  
トナシテ可クカ

持ニ官吏ヲ任用スルヲ得ヘシハ第三十  
章

第一 附加條例ニ於テ定ムル所ニ拠レハ五歳  
以上十三歳以下ノ児童ヲ育スル父母ノ如キハ  
必ズ之ヲシテ其児童ヲハ事故ノ関係アリテ適  
理ノ明辨アルニ非サレハ一學校ニ出席セシメ  
ニテ之ヲ要シ得ヘシ

従来制定セシ例則ニ於テハ學務局ヲシテ  
テ學校ニ入学セシムヘキ児童ノ學齡ヲ定ム  
ルニ注意スルヲナカシメタリ蓋シ是等ノ

事ハ附加條例ニ全ク準拠スル所ハ只滿五歳  
ヨリ滿十二歳ニ至ルノ児童ノニ限レリト  
虽レ方今學務局ニ於テハ更ニ斯ノ如キ児童  
ノ學齡ニ限界ヲ決定セニテテ故シ類リニ統  
學院ノ許可ヲ得ニテテ務メリ  
又日々出校スヘキ児童ノ額數ハ其學區ノ事  
情ヲ斟酌シ附加條例ヲ作りテ之ヲ整理スル  
ヲ可トス  
附加條例ハ實ニ父母タルモノヲシテ其児童  
ヲ學校ニ出席セシムヘキヲ論セルモノト

不然レモ公立幼年学校ニ於テハ児童ヲシテ  
出校セシメント欲スルモ其児童若シ他ノ学  
校ニ於テ既ニ確實ナル教育ヲ受クルハ則  
之ヲ強迫シテ必ス出校セシメントシテ要スヘ  
カラス

凡テ学務局ハ此條例ニ準拠スルニ人ノ父母  
為ルモノヲシテ甲ノ学校ヨリ乙ノ学校ニ其  
児童ヲ轉校セシムルヲ遏止スヘキ権力ヲ有  
セス而シテ統学院ニ於テハ父母タル者ノ某  
所ナル一ノ幼年学校ヲ選ニテ其子ノ満五歳

ヨリ満十二歳ニ至ル者ヲ入校マシムルヲア  
ルハ則其父母タル者ヲシテ特ニ其児童ヲ  
轉校セシムヘキ許可ヲ学務局ヨリ受ケ或ハ  
其学校ヲ距ル一里以外ノ地ニ移住シ通学ノ  
便利ヲ欠ク等ノ事アルニ非カルヨリハ其現  
ニ入学スル所ノ学校ニ於テ次回ノ試業ヲ行  
ヒ國王ヨリ親達セル監察官ノ之ヲ試験シ終  
ルマテ其児童ヲ他ノ学校ニ轉移セシムルヲ  
許可セサルカ故ニ附加條例ニ掲載セル所ヲ  
以テ之ヲ可トセサルナリ

且統学院ハ附加条例中ニ於テ児童ヲ学校ニ  
入セシム可キヲ要スル報告ヲ発行スル後  
若シ之ヲ破毀シテ更ニ他ノ置ヲ做スヲアル  
ハ其処置スヘキノ期ハ必スニ週日ノ間際ヲ  
有スヘキヲ登録センヲテ懲懲セリ

第二 児童ノ学校ニ上ルヘキ時限ヲ定メ又ハ  
七日斯ノ如キ附加条例上決シテ父母タルモノ  
、其子ヲシテ某派宗教上ノ礼仪即チ其教法ヲ  
旨主トセル訓誨ヲ受ケサラシムルヲ遏止ス  
ヘカカストス又其父母ノ信奉スル所ノ教法ノ訓

誨ヲ受ケレモノニカ為メ時日ヲ制定シ必ス其思  
童ヲシテ出校セシメンヲ要ス可ラス又勤勞  
工作ヲ做サシムヘキ児童ノ教育ヲ整治スルカ  
為メニ設ケタル條例中ニ陳ル所ニ敢テ悖戾ス  
可ラス

児童ヲシテ或ル宗教上ノ礼仪訓誨ヲ受ケレ  
メス又之ヲシテ特ニ其父母ノ信奉スル所ノ  
教法訓誨ヲ受ケレメニカ為メ時日ヲ定メテ  
学校ニ出席セシムル等ノ事ハ第七章第十四  
章又七第十七章ニ詳カナリ

允リ學務局ヲ設置シタル地方ノ學校ニ於テ  
說教スル所ノ宗教訓誨ノ種類方法ハ其學務  
局ノ附加條例ヲ作成スルニ方リ之ヲ以テ其  
目途トナシ注意スヘキ所ニアラス依テ統學  
院ニ於テハ此趣向ニ關係セル附加條例ヲ確  
定施行セシメテ務ムヘキモノナリ

第三 兒童ノ父母タルモノ其貧困ナルカ爲メ  
ニ授業謝金ヲ出ス能ハサルニ由リ之ヲ學務局  
ニ申請請求スルコトアルハ全額中其幾分ヲ寬  
恕シ或ハ該局ヨリレテ悉皆之ヲ償ハシテ決

定スヘシ

是等ノ事情ニ関シ學務局ヨリ授業謝金ヲ償  
ヒ又之ヲ寬恕スルコトニ就テハ第十七章及ヒ  
第二十五章ヲ參看スヘシ  
リベルポール地ノ學務局ニ於テハ允テ學務  
局ヨリ費用ヲ支給セサル學校ニ出席スル兒  
童ノ爲メニ其謝金ヲ拂フヘキコトヲ定メ或ル  
附加條例ヲ亦議難論スルコトアルニ由リ統學  
院ニ於テ其附加條例中ニ含有スル所ノ旨趣  
ヲ考察思決スルヲ肯セサルノ理ナキコトヲ主

張スル太夕明カナリ  
 是レ則テ父母タルモノ極ノテ貧困ニシテ其  
 子ノ謝金ヲ出ス丁能ハサレハ學務局ニ於テ  
 為ニ其子ノ入學セル處ノ公立幼年學校ニ出  
 スヲ以テ之ヲ可トセルモノニシテ第一ニハ  
 學務局ナルモノハ父母ノ貧困ナルヲ以テ實  
 ニ其學費ヲ納ル丁能ハサルハ必ス之ヲ救  
 助スヘキノ道理アルヲ云ヒ第二ニハ何レノ  
 地ノ公立幼年學校ニ入學セルムルモ只父母  
 ノ撰擇ニ任マヘキモノナルヲ云ヘリ而シテ

是等ノ事情ヲ斟酌考定シテ此趣旨ヲ遵守セ  
 ント欲スレハ則テ學務局ハ只此條例ノ第二  
 十五章ニ云ヘルカ如ク其所有ナル特別ノ權  
 カヲ尽スアルノミ又他ニ方法アルヲナクシ  
 テ只其強迫壓制ナル所ノ附加條例ノ如キハ  
 之ヲ施行スルト否ヲサルトニ關係スルヲナ  
 シ而シテ若シ此強迫壓制ヲ主トスル處ノ趣  
 旨ヲ採用スルヲアルハ其權カヲ盛ナラシ  
 メニテテ欲スルモノ、持論ヲシテ自然ニ旺  
 長セシムルニ至ルヘク假令之ヲ避ニテテ欲

スモ亦得ヘカラサルニ至ラニノミ然ルニ学  
務局ハ父母ヲ助成スルニ就テ只其局ニ納ル  
所ノ謝金ノミヲ宥恕スルカ為メニ必ス其見  
童ヲシテ第十七章ニ示セルカ如キ学校ニ入  
学セシメンテテ憐愍ス然レモ父母タルモノ  
ハ其自己ノ便宜ヲ計リ且良心羞慙ノ意アル  
ヨリ多ハ皆学務局ノ支給セサル公立幼年学  
校ニ其子ヲ入学セシム而シテ父母タルモノ  
既ニ自ラ好テ其子ヲ此ノ如キ学校ニ入学セ  
シムルキハ其権義ヲ奪了シテ更ニ他校ニ轉

学セシムルハ実ニ不正ノ舉ト云フヘシ如何  
トナレハ斯ノ如キ人ハ実ニ強迫ニ因リ已ラ  
得ズ其子ヲ入学セシメシモノニシテ其貧究  
ナルテ自ラ学資ヲ償フ能ハサルハ固リ既ニ  
知ラル所ナレハナリト

然ルニ又統学院ハ学務局ヨリ支給スル学校  
ニ於テハ貧困ナルヲ以テ謝金ヲ納サムル能  
ハケル所ノ父母ノ為メニ其謝金ヲ宥恕スル  
テアリト虽モ而モ学務局ノ供給ヲ仰カサル  
公立幼年学校ニ於テハ此ノ如キ児童ノ入学

スルヲアル中ハ謝金ノ事ニ就キ 條款ヲ  
定メサル所ノ附加規則ヲ施行スヘキヲ許  
可セリ且統学院ハ第二十五章ニ云ヘルカ如  
ク或ル附加條例ニ関係セシテ特ニ學務局  
ニ附与セシ所ノ權威ニ就テ注意スル所アリ  
蓋シ斯ノ如キ權威ハ學務局ノ以テ貧困ナル  
父母ノ通常ナル學費ヲ償フナクシテ自己  
ノ好ム所ニ從ヒ其児童ヲ或ル公立幼年學校  
ニ入校セシムル所ノ人ヲ了寧ニ善ク救助保  
護シ之ヲシテ償罰金等ヲ出スナラ免レシム

ル所以ナリ

第四 附加條例ニ悖戾セル者ニ徵課スル所ノ  
賍罪金

第五 其曾テ制定セル所ノ附加條例ヲ變革登正  
スルヲ

此章ノ記載スル所ニ據レハ生徒中其年齢十歳  
ヨリ少ナカラス十三歳ヨリ多カラサルモノニ  
シテ國王ノ親遣セル検査官ヨリ此附加條例ニ  
掲出セル教育成規ニ照會シ果シテ其定制ニ合  
スル所ノ保証ヲ得タルモノハ學校ニ出席スヘ



キ義務ニ就キ或ハ全ク之ヲ免除シ或ハ其一ニ  
 分ヲ除免スル特許ヲ得ルモノトス  
 以下掲出スル所ノ條款ハ其除免ヲ得ルニ就キ  
 最モ確實正當ナル辨解ナク  
 第一ハ他ノ場所ニ於テ完全充備シタル教育ヲ  
 受クヘキモノ  
 第二ハ沈病痼疾等ニ罹リ其他或ハ逃避スヘカ  
 ラサル者故アルモノ  
 第三ハ學生ノ居宅ヨリ假令捷徑ニ就クモ其距  
 離三里以内ニシテ一個ノ公立幼年學校ノ設立

下文ノ注解ヲ  
 參看スヘシ

乃千

ナキモノ

允テ就學セサル學生アルハ彼ノ附加條例  
 ニ準拠シ其父兄ニ指令スヘキ權利ハ之ヲ統  
 學院ニ割奪シト特有ニ取テ學務局ニ附與ス  
 ルヲナシ  
 學務局ヨリ此附加條例ヲ公發スルニ就キ未  
 タ統學院ノ免許ヲ請ハサル前約一月間ニ於  
 テ出税人ノ検査ヲ做サシカ為メ此條例ヲ刊  
 刷シ其稿本ヲ局中ニ貯藏シ且之ヲ出税人ニ  
 附與シ然ル後之カ報告ヲ做スヘシ

報告公布ノ方法ハ第八十章ニ於テ之ヲ詳  
ニス

統學院ヨリ一回附加條例ヲ發行スルノ後  
復ヒ之ヲ改正セント欲スレハ假令曩キニ  
國王ノ親遣セル検査官ノ查閱ヲ經ルモノ  
ト雖モ更ニ一月餘ノ間ニ於テ之ヲ点檢ヲ  
做サシムルヲアリ

統學院ニ於テ附加條例ヲ採用スルノ前ニ方リ  
既ニ前条ノ如ク刊刷貯藏ニ止報告公布スルヲ  
ヲ知レハ其之ヲ用フルノ須要タル學區ニ於テ

ハ必ス之ニ照準シテ施行スヘキヲ令スヘシ  
凡テ此附加條例ヲ施行シ或ハ此條例ニ背馳シ贖  
罪金ヲ課スルカ如キ共ニ皆簡易ノ方法ニ從ヒ  
之ヲ処スルヲ可トス故ニ其贖罪金ノ如キハ擬  
令多キニ從フモ必ス五「シ」リングヲ諭エル可  
ラス而シテ此附加條例ハ公會ニ於テ國王ノ親  
裁ヲ經ルニ非サルヨリハ確然施行スヘ可ニサ  
ルモノトス  
贖罪金徵課法ハ「ウ」イクトリヤ「ウ」ウ女王律令書第  
四十三篇十一十二兩号ニ於テ之ヲ詳記ス

既ニ公會ニ於テ國王ノ親裁ヲ経ル後ハ之ヲ  
條例中ニ登錄シテ直ニ施行シ得ヘキモトス  
固リ為ニ障礙ヲ醸スヲアルヘカラス  
リヴエルフールロントニ府ニ行ハル所ノ附  
加條例及ヒ諸學務局制定附加條例中公會ノ許  
可ヲ經統學院ノ承諾ヲ得タルモノハ之ニ表準  
シテ其要領ヲ得ルカ為ニ領布附與スヘキモノ  
トス下文三百十一葉ヲ看ルヘシ  
斯ノ如ク公會ニ於テ國王ノ名許ヲ受ケ直ニ之  
ヲ施行スヘキニ至レハ毎年統學院ヨリ公布ス

ル所ノ年報書ニ登記シ更ニ附録ヲ発行ス

第七十五章

雜錄

僅少ナル寄附適用法ヲ論ス一八

凡テ何地學校ニ論ナク一八六十九年學校  
寄附條例發行ノ始メニ於テ年ニ寄贈ヲ收納  
スルノ故ヲ以テ國會ヨリ條例上供給ノ除免ヲ  
受ルヲアルキハ其官理者及ヒ教員等ヲシテ一  
切統學院ノ指令ヲ遵奉ヒシ且斯ノ如キ學校  
ニ關スル模範ハ皆之ニ從テセシムヘキモノト

又一千八百六十九年ニ発行セル學校寄附條例  
ノ目途ハ「ガイクトリヤ」女王律令書第五十六篇  
三十二三十三ノ兩号ニ拠ル則チ官轄及ヒ辦理  
等各種ノ事件ニ就キ變換スル所アラシムルト  
且教育及ヒ授業上ニ関セル寄附ニ於テ各般ノ  
變更ヲ整理スルキニアリ是レ蓋シ各人ノ大ナ  
ル功績ヲ振興シ及ヒ諸學校中ノ生徒ヲシテ自  
由完全ノ教育ヲ受ケシメ且其學校ヲ設立ヒシ  
モノヲシテ其素志ヲ伸賜スルヲ得テ悦服ス  
ル所アラシムンカ為ナリ

一千八百六十九年第八月二日ニ於テ発行セル  
処ノ寄贈ヲ收受セル各地學校ニシテ「ガイクト  
リヤ」女王律令書ノ第七十七篇三四兩号ニ固テ  
制定セル語學校ニ非ハルヨリハ條例上ノ供給  
ハ之ヲ除免セルモノトス  
斯ク其供給ヲ除免セル學校ノ如キモ現今ニ至  
リテハ稍ク廢弁スル所トナレリ  
第七章ノ登載スル所ニ從ハハ學校管理者ナル  
者ハ其班校中ノ上位ニ在ラスト雖モ各種ノ寄  
附ニ関セル事件ヲ整治処分シ又ハ寄附學校及

七其他ノ學校ニ於テ委員及ヒ教官其他學費収  
 納者等ヲ命令スヘキ權利ヲ有スルモノトス  
 斯ノ如キ學校ノ模式ハ總テ統學院ニ上申シ統  
 學院ニ於テ令議ノ上之ヲ變更スルト否ヲサレ  
 トヲ視テ當ニ兼認スヘキモノトス  
 一千八百六十九年間ニ於テ施行セル寄附條例  
 ニ揭示スル模式方法ニ因テ施行セルカ如ク上  
 文ニ記載セシ所ト同一ノ權カヲシテ之ヲ施為  
 ス然リ而シテ斯ノ如キ方法若シ既ニ統學院ノ  
 決定ニ由リテ其聽可ヲ得シモノナル以上ハ之

ヲ視故シテ施行シ得ヘキモノトス  
 此條例ニ揭示スル所ノ方法ハ薄テ生徒タル  
 モノ男女ノ別ナク皆駁々然トシテ教育ニ進  
 歩セシメ且曩キニ成立決定セル者ヲシテ漸  
 々増補改良セシムルニ足レリ加之信任命令  
 貯藏等ニ由テ他ヲ感動シ寄附ノ額ヲ増シ教  
 育ノ歩ヲ進メ又寄附金ヲ分合適用スルノ方  
 法ヲ得且更ニ信任命令貯藏ノ功ヲ實ニスル  
 ヲ得ヘシ  
 一個ノ學校アリテ既ニ一千八百六十九年間ニ

於セル寄附學校條例ノ行ハル、始ニ於テ其能  
ク成立スヘキヲアルヲ統學院ヨリ保証スルニ  
至レハ則チ年々公會ヨリ指令スル贈寄許可ノ  
收納上明決ナル証トナスニ足り其諸般ノ目途  
ニ於テモ亦以テ保証セラルヘシ

國王親遣監督官ノ所轄ニ設セザル私立學  
校ノ管理法ヲ論ス

凡ソ何地ニ論ナク學務局ニ於テ供給セザル所  
ノ公立學校々長ヨリ法教上及ヒ其他ノ旨趣ニ  
關シテ學校ノ監視或ハ其生徒ノ試験ハ國王ノ  
監督官ニ由ラズニテ他ノ管理者ニ做サシメシ  
ト欲スルキハ一歲中兩回之ヲ行フ可キ時日ヲ  
定ムヘシ

倫勳總轄教師所屬ノ敎部局ヨリイスタアリ  
トストオフイシグランド敎院ト共ニ連絡ニ  
テ學校生徒ノ法教學ヲ試験スルヲアリ  
該校々長既ニ其時日ヲ定ムレハ其期日ヨリニ  
周間以前ニ於テ之カ公先ヲ祭シ且其學校中ニ  
於テ明瞭ナル揭示ヲ做シ各人ヲシテ其期日ヲ  
知ラシメシテ要セリ

斯ノ如ク決定シタル當日ニ於テハ先ツ法教儀  
式ヲ行ヒ且其授業中ニ就テ其時間ヲ定メ以テ  
講習ヲ行フヘシ然ト雖モ若其生徒ノ父母タル  
者ヨリ彼ノ法教儀式及ヒ其旨趣ニ関セル講習  
ヲ受ケシムルヲ欲セスシテ各其所好ニ從ハン  
トテ願フモノハ敢テ之ヲ強ヘカラス唯此日ニ  
於テハ欠席セシムルヲ要トス

終

